

## 第2部 ボランティア・市民活動の推進

### I 令和3年度事業総括

#### 第1 課題及び基本方針への対応

令和3年度も新型コロナウイルスの感染拡大の影響を大きく受けた1年となりました。市内の多くの市民活動や地域活動が縮小や自粛となる中、市民活動支援センターをはじめ各ボランティアコーナーでは、感染対策の徹底を図りボランティアや活動団体等の支援を行ってきましたが、オリンピック・パラリンピック大会に向けて、調布市が募集した「おもてなしボランティア」が活動の場を失ったように、新型コロナウイルスの感染状況は続き市民活動に関わる市民のモチベーションへも影響しました。

このような状況下ではありましたが、「2018～2022 市民活動支援センター中長期運営方針」（以下、「中長期運営方針」という。）に基づき、多様な個人・団体・企業等と協働しながら、開かれたセンター運営、工夫した支援の継続に努めました。

また、令和4年度に最終年を迎える「中長期運営方針」の成果を振り返りつつ、次期の策定を見据えた検討を始めました。

コロナ禍は、まだしばらく続くことが想定されますが、市民活動を衰退させることなく「コロナに負けない」市民活動をしっかり支援していきます。

#### 第2 重点項目の総括

##### 1 中長期運営方針の5本の柱に対応したセンター運営

- ①「人材の発掘及び育成」では、ボランティア体験事業の拡充、イベント実行委員会への学生の参画に取り組みました。
- ②「行き交う情報の有効活用」では、公式Twitterの発信や、ホームページ、えんがわだよりの充実を図りました。
- ③「えんがわファンドの活用」では、コロナ禍で活動する団体の支援につながりました。
- ④「パートナーシップの強化」では、社協内の研修に団体をつなぐことができたほか、えんがわだよりの取材や事業等を通じて多様な団体・個人とつながりを深めることができました。
- ⑤「災害時の支援」では、令和2年度は実施できなかった「災害ボランティア養成講座」を実施することができ、調布市との災害時の協定の見直しの協議を始めました。

##### 2 事業を通じての人材の育成、連携強化、支援の充実

学生の参加等多くの事業を通じて、新たな人材と関係を深めた1年となりました。

職員も相談支援技術向上のため、個々の職員が集合型研修やオンライン研修に参加するとともに、在宅勤務の機会を生かし、関係書籍による個別学習に取り組みました。

今後も、様々な機会を活かし、新たな人材の発掘・育成を心掛け、多くの団体、個人との連携をより一層深めながら、「コロナに負けない」ための工夫をしながら、調布の市民活動の支援を継続します。

## II 個別事業

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(1)	市民活動支援センターの受託・運営			市	○

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(2)	ボランティア活動推進	会寄雑 基	市		○

## 第1 センター及びボランティアコーナー（ブランチ）の運営

## 1 市民活動支援センター運営委員会の開催

結果の概要

- 新任の運営委員4人を含め14人の体制で運営委員会をスタートした。
- 新型コロナの影響を受け、オンライン開催やオンラインツールを活用した会場とのハイブリッド開催等、工夫しながら年10回運営委員会を開催し、協議を行った。
- 地域で話題の居場所から取組の好事例を見つけ、ノウハウを見出すための「居場所探訪」や、子育て世代の居場所を作る取組「おはなしほっとカフェ」を立ち上げ、実施を継続している。
- 各コーナーとの連携強化のための「コーナー巡り」を通じ、各コーナーと運営委員の関わりが増加した。令和4年度は菊野台コーナーで手話をテーマにした活動を立ち上げる予定。

実績等

(1) 市民活動支援センター運営委員会 任期：令和3年4月1日～令和5年3月31日

氏名	選出区分	主な活動、所属等
壽賀 一仁（委員長）	市民公募	公募委員・一般社団法人あいあいネット
嶋田 浩一（副委員長）	市民活動団体	こくりょう子ども食堂わいわいプロジェクト
横山 真理（副委員長）	市民活動団体	こんぺいとう子育てひろば
水田 征吾	ボランティア	個人ボランティア
村上 むつ子	市民活動団体	G l o b a l 調布！
平澤 和哉	市民活動団体	NPO法人ちょうふこどもネット
児島 秀樹	市民活動団体	グッドモーニング調布！
梶井 文子	関係機関	東京慈恵会医科大学医学部看護学科
長浜 洋二	学識経験者	モジヨコンサルティング合同会社（代表）
佐々木 真紀	ボランティア	個人ボランティア
原島 秀一	市内企業	税理士事務所
熊谷 紀良	関係機関	東京ボランティア・市民活動センター
萩原 治	行政関係	調布市生活文化スポーツ部 協働推進課長
高木 直	社協関係	市民活動支援センター長

(2) 令和3年度 市民活動支援センター運営委員会開催状況

<p>第1回</p>	<p>5月7日(金) (オンライン開催)</p>	<p><b>【審議事項】</b>                      正副委員長の選任                      調布市社会福祉協議会 理事候補者の推薦                      令和3年度えんがわファンド選考委員(案)の審議                      令和2年度市民活動支援センター事業報告(案)について                      令和2年度市民活動支援センター資金収支決算報告(案)について</p> <p><b>【共有事項】</b>                      市民活動支援センター中長期運営方針と前期の取組</p> <p><b>【ミニ講義】</b>                      「運営委員の果たす役割～市民に開かれたセンター運営を進めるために～」講師：枝見 太郎氏</p>
<p>第2回</p>	<p>6月10日(木)</p>	<p><b>【共有事項】</b>                      センターの位置づけ及び中長期運営方針と前期の取組</p> <p><b>【協議事項】</b>                      運営委員会で今期取り組むテーマ                      令和2年度えんがわファンド助成先団体の対応と令和3年度選考結果について</p> <p><b>【報告事項】</b>                      令和2年度市民活動支援センター事業報告について                      令和2年度市民活動支援センター資金収支決算報告について                      えんがわカフェについて</p>
<p>第3回</p>	<p>7月20日(木) (オンライン開催)</p>	<p><b>【相談事項】</b>                      センター運営要綱等の一部改正及び廃止について</p> <p><b>【協議事項】</b>                      運営委員会で今期取り組むテーマ</p> <p><b>【報告事項】</b>                      令和3年度えんがわファンド再選考の結果について                      センターで取り組む4つのテーマの進捗状況</p>
<p>第4回</p>	<p>9月17日(金)</p>	<p><b>【審議事項】</b>                      令和4年度予算要求について</p> <p><b>【協議事項】</b>                      運営委員会で今期取り組むテーマ</p> <p><b>【報告事項】</b>                      センターで取り組む4つのテーマの進捗について                      ちょうふチャリティーウォークの延期と代替企画                      市民活動支援センター運営要綱等の一部改正及び廃止について</p>

<p>第5回</p>	<p>10月22日(金)</p>	<p><b>【共有事項】</b>          中長期運営方針の進捗確認と今後の進め方の共有</p> <p><b>【協議事項】</b>          2つの部会の活動とえんがわフェスタについて</p> <p><b>【報告事項】</b>          センターで取り組む4つのテーマ進捗について          ちょうふチャリティーウォークの代替企画          調布 Summer ボランティアについて          まち活フェスタの進捗</p>
<p>第6回</p>	<p>11月18日(木)</p>	<p><b>【協議事項】</b>          中長期運営方針評価フォーマットについて          各グループの進捗と今後の予定(居場所・多様な個性)          えんがわフェスタのテーマ</p> <p><b>【報告事項】</b>          ちょうふチャリティーウォーク(オンラインイベント)開催結果について          まち活フェスタの進捗          センターで取り組む4つのテーマ進捗</p>
<p>第7回</p>	<p>12月17日(金)</p>	<p><b>【協議事項】</b>          中長期運営方針評価フォーマットについて          各グループの進捗と今後の予定(居場所・多様な個性)          えんがわフェスタのテーマ</p> <p><b>【報告事項】</b>          まち活フェスタの進捗          オリンピック・パラリンピックおもてなしボランティア向けクロージングイベントへの参加について          運営委員会で取り組む4つのテーマ進捗</p>
<p>第8回</p>	<p>1月13日(木)</p>	<p><b>【協議事項】</b>          令和4年度事業計画へのアイデアの整理          えんがわフェスタ企画と役割分担の決定</p> <p><b>【報告事項】</b>          えんがわ文庫について          各グループの進捗と今後の予定          ちょうふチャリティーウォーク及びまち活フェスタ</p>

<p>第9回</p>	<p>2月10日(木) (オンライン開催)</p>	<p>【審議事項】 令和4年度事業計画と予算の承認</p> <p>【協議事項】 えんがわフェスタ当日に向けて</p> <p>【報告事項】 えんがわ文庫について 各グループの進捗と今後の予定 ちょうふチャリティーウォーク及びまち活フェスタ</p>
<p>第10回</p>	<p>3月24日(木)</p>	<p>【審議事項】 えんがわファンド選考委員の選任</p> <p>【協議事項】 中長期運営方針の評価 えんがわフェスタの振り返り</p> <p>【報告事項】 えんがわ文庫について ちょうふチャリティーウォーク実施報告 まち活フェスタ実施報告 令和4年度事業計画と予算</p>

### 分析・課題

○令和4年度は中長期運営方針の最終年度にあたるため、コロナ禍で下方修正した目標の達成に向け、進捗管理が重要である。次期中長期運営方針へ適切に結び付けることが課題と言える。

## 2 市民活動支援センター利用者会議の開催

### 結果の概要

○新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、利用者会議は実施せず、ロッカー・メールボックス利用者に郵送によるアンケート調査を行い、活動再開見込みの有無や活動自粛による、課題について聞き取り、必要に応じてサポートを行った。

### 分析・課題

○アンケート用紙は、94のセンターロッカー・メールボックス利用団体に郵送し、73の団体から回答を得ることができた。(回収率77.6%)

○令和2年度に続き、緊急事態宣言やまん延防止重点措置の発令・延長があり、多くの団体が自粛や休止する等、従来の活動を継続することが難しい状況であったが、つながりを絶やさないよう、工夫しながら関係を維持している団体が多かった。

○緊急性の高い相談はなかったが、今後の活動に向けた会員募集を希望する団体が複数あった。

○コロナ禍で活動休止期間が長引く中、センター側からも早期の活動再開に向けた団体への支援を行う必要を感じた。

○平均年齢の高い団体が多数あり、若年層、中年層世代をターゲットとした市民活動参画の啓発

や新規団体発足等の取組も検討したい。

- 従来通りの利用者会議は2年連続開催できなかった。コロナの状況次第であるが、対面形式で開催したい。
- センター活動スペースの「はばたき」が、無料で集まれる場所として、活用されていることや、多彩な団体が利用していることで、出会いの場としてとても意義のある場となっている。
- 引き続き、利用者の意見を集め、様々な団体とも定期的な接触を図り、いつも寄り添えるセンター運営に努めたい。

### 3 市民活動支援センターサポーター会員制度

#### 結果の概要

- 地域や社会の課題を解決し調布のまちが豊かになることを目指して、調布で活動するボランティアグループ・市民活動団体等を「資金」と「つながり」で助成する「えんがわファンド」の原資として活用した。
- 新型コロナウイルスの影響を受け、さらなる共感者の獲得に向けた市内企業や団体への訪問は実施できなかった。

#### 実績等

加入口数	R3	R2
一口／3,000円	76	90
合計額（円）	228,000	270,000

サポーター会員数	R3 実数	R2 実数
団体	39	51
個人	20	21
匿名	1	0
合計	60	72

新規・継続内訳	R3 実数	R2 実数
新規サポーター	1	4
継続サポーター	58	68
匿名	1	0
合計	60	72

#### 分析・課題

- 昨年引き続き、継続サポーター会員への通知やホームページ、Twitter等を活用し、共感者を増やすための試みを模索したが、サポーター数、加入口数、新規、継続サポーター数いずれも減少となった。
- さらなるPRや広報媒体の工夫、2年間実施できていない企業等への周知も積極的に行う等実績増の取組を行っていく。

## 4 市民交流事業の実施

### (1) えんがわフェスタ 2022 の開催

#### 結果の概要

○市民活動支援センター運営委員会で協議をし、「居場所・つながり」をテーマにフルオンラインイベントを実施した。

#### 実績等

名称	えんがわフェスタ 2022		
目的	<p>① えんがわフェスタを通じて、社会参画のきっかけづくりを行い、活動者の裾野を広げるため。</p> <p>②市民活動支援センター中長期運営方針で掲げる 5 本の柱のすべてに関わっている「人と人のつながり」について、なぜ今つながりが必要なのか？どのようなつながりが求められているのか？を知るため。</p>		
日時	令和 4 年 2 月 19 日（土）（10 時 00 分～12 時 30 分）		
会場	オンライン（Zoom）		
参加者数	41 人		
内容	<p>第 1 部 居場所運営等を通してつながりづくりを実践している運営者や、その場の利用者から話をうかがい、つながるための方法や関係性等のヒントを見つけていく。</p> <p>第 2 部 参加者の意見交換と、今後どんな「つながり」が必要かを話し合いシェアする。</p>		
協力	しばさき彩ステーション、こくりょう子ども食堂わいわい、青少年ステーション CAPS		
主催	市民活動支援センター	企画運営	市民活動支援センター運営委員会

#### 分析・課題

- 「居場所・つながり」をテーマに、登壇した 3 団体から、それぞれの想いや、利用している方にとっての価値等について聞いた。また、第 1 部と第 2 部を通じて、人と人のつながりや関わりが、より豊かな地域生活を送る上で非常に重要であることを再認識する機会となった。
- 令和 2 年度に引き続き、字幕機能を活用し、日本語が苦手な方も参加しやすいよう、工夫して実施できた。
- 第 2 部の意見交換が非常に盛り上がり、時間が短く、話し足りないという意見が出たため、今後実施するうえでの課題となった。

### (2) 第 8 回調布まち活フェスタ

#### 結果の概要

- 市民活動団体や活動している個人の方々に、実行委員に参画していただき、広く出展団体を募集した。令和 2 年度に引き続き、コロナ禍での開催のため、当初から YouTube 配信をベースにしたオンラインでの実施を計画し開催した。
- 市内大学に実行委員の募集を周知し、2 人の学生の参加があった。

- 開催に向けて、準備会を1回、実行委員会を6回、出展者会議を2回開催し、事業実施に向けての準備と出展団体への説明の場を設けた。
- また今回は、コロナ禍での開催であることを考慮し、主管課である協働推進課と協議のうえ、調布市との共催事業とした。
- 令和2年度のオンライン開催の経験を活かし、実行委員の方々の準備と配信のリハーサルによって、大きな混乱もなく実施できた。
- 市民活動支援センターを配信拠点およびメイン会場として、オンデマンド（事前収録）とライブ配信、メイン会場でのインタビューを交えた配信を行った。
- 調布市外の方の視聴もあり、調布市内の活動を広く知ってもらうことができた。

**実績等** <第8回調布まち活フェスタ・当日>

開催日	令和4年3月6日（日）10時～15時
会場	調布市市民プラザあくろす（配信拠点）
視聴者数	1,185件（当日視聴810件、見逃し配信視聴375件）
参加団体数	22団体
協力	Withgrow・商工会青年部・元ミス調布2人 （インフラ整備、司会進行、広報等）
協賛企業	市内14社
実行委員	14人
主催	第8回調布まち活フェスタ実行委員会
共催	調布市・調布社協（市民活動支援センター）
後援	調布市教育委員会
目的	多くの市民に多彩な市民活動に触れてもらう機会とするとともに、市民活動団体同士の交流の場として、市民活動の活性化を目的とする。
実行委員会開催	6回開催
出展者会議開催	2回開催
内容	○実行委員会企画 ・開閉会式・協賛企業紹介・参加団体インタビュー ・「おすすめ飯」紹介とグランプリ決定 ○オンデマンド出展（事前収録動画を配信） ・調布市内大学連携事業紹介・ほっとれーる紹介・地域包括支援センターときわぎ国領、ゆうあい紹介・商工会青年部紹介・白百合女子大マスールハローキティボランティア紹介・ボーイスカウト調布第3団紹介・多文化ハーモニー東京多摩紹介・電気通信大学鉄道研究会プラレール走行動画・調布さくらウィンドオーケストラ演奏動画・ワカモノプロジェクト紹介・青少年ステーションCAPS紹介・東京都行政書士会調布支部紹介・ちょみっと紹

	介・調布市自治連紹介・地区協議会紹介 ○ライブ出展 ・演奏；MECP事務局 with100万人のクラシックライブ ・演奏；Yuu&Shoken・活動紹介；フットの会・活動紹介；ダブリンラボ・お笑い；ふらわーまうんでん・
--	--

分析・課題

- 令和2年度は2,000件を超す視聴があったが、今回は思ったほど視聴者数が伸びなかった。広報等周知の方法が課題となった。
- 自ら手を挙げて実行委員に参加してくれた2人の学生が、積極的に運営に関わってくれた。継続的に関わってもらえるような働きかけをしていきたい。
- 次回の開催に向けて、会場開催ができるとしても、会場に来ることが難しい方々にも見てもらえることから、オンラインによる配信の必要性を強く感じられた。

## 5 えんがわ文庫の運用

結果の概要

- 市民活動支援センターが市民にとって入りやすい場、使いやすい場にするため、令和2年度から市民とともに開設準備を続けていた「えんがわ文庫」を11月1日にオープンした。「誰でも気軽にふらっと立ち寄れる本のある空間」をコンセプトに、新たなコミュニティスペースとしてセンター入口スペースに開設した。

実績等

- 12月5日に静岡県焼津市の「みんなの図書館さんかく」館長、土肥潤也氏を講師に迎え、一箱本棚オーナー制の私設図書館の運営について、勉強会を実施した。職員に加え、えんがわ文庫開設に有志で協力していた市民の参加を募り、運営の仕組みや課題等を学んだ。
- 本棚の貸出を開始するため、参加を希望する市民向けにえんがわ文庫説明会を3回開催し、えんがわ文庫のコンセプトやルールの説明を行った。合計27人が参加し、26人の貸出申請を受け、本棚の貸出を決定した。

第1回	1月15日(土) 11時～正午	参加者 15人
第2回	1月21日(金) 19時～20時	参加者 6人
第3回	1月24日(月) 10時～11時	参加者 6人
		合計 27人

- 3月19日に本棚の貸出者を対象とした懇談会を開催し、17人が参加。自己紹介に加え、それぞれの本棚のテーマや、今後やってみたいことについて話す等交流を行った。

分析・課題

- オープン以降、感染拡大の影響を受け、大きく広報できていなかったが、センター公式Twitterでの発信やホームページの案内に対する反応は大きく、取組の注目度は高かった。特にTwitter上での表示回数(インプレッション数)は、12,000件を超え、過去最高の反応だった。

○まちライブラリーや一箱本棚オーナー制の私設図書館が各地に広がっている中、公共施設内に初めてオープンしたことを活かしPRしたい。感染防止の観点から、えんがわ文庫でのイベント開催はできなかったが、令和4年度は読み聞かせ等、棚主とともにアイデアを出し、多くの方に興味・関心を持ってもらえる取組を行いたい。

## 6 ボランティアコーナー（ブランチ）の運営

### 結果の概要

- 身近な地域に密着した相談・活動の拠点としてコーナーを設置している。
- 地域の方々によって運営されている野ヶ谷の郷を含め7拠点のブランチを運営しており、小島町コーナー（月～金）、西部コーナー、染地コーナー（火～土）の3拠点が週5日開所、菊野台コーナー、富士見コーナー、緑ヶ丘コーナー、野ヶ谷の郷の4拠点が週3日（火、木、土）開所となっている。

### (1) 小島町コーナー

#### ① ボランティア活動室利用者会議の開催

##### 実績等

- 活動室のルール再確認、活動室の定期利用、棚等の希望を確認し、団体間の調整を行った。
- 令和2年度に続き令和3年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会議は開催しなかった。
- 令和4年度の希望調査については、活動室を利用している22団体に、書類で確認を行った。

### 結果の概要

- 活動室の利用希望日について、団体間の調整を行った。

### 分析・課題

- 新型コロナウイルスの影響を受け、活動室の利用について、時間、利用人数、飲食に関する制限が続いた。そのため、引き続き活動を自粛し続ける団体も多くみられた。
- そのような中、活動を40年近く長く続けてきた2団体が解散することになった。高齢化によりメンバーも減少し、またコロナの影響を受け、製作した品をバザーで売る機会もなくなったことで、やむなく解散となった。
- 一方で、新規団体の立ち上げ支援を行い1団体が加わる事になり、また、今まで活動室以外の会場を借りて活動していた団体に活動室の利用を促し、令和4年度から3団体の活動室利用も増える事になった。これらから利用人数増が期待できる。

#### ② スマホ講座

##### 実績等

開催目的	スマホ初心者の高齢者を対象に実施。 スマホに触れ、体験することで、その楽しさに気づき、スマホを利用する
------	--

	抵抗感を軽減する。
開催日時	令和4年 1月21日(金) 9:30~11:30
会場	総合福祉センター2階 会議室
内容	スマホの基本とline体験
参加者	16人

### 結果の概要

- ソフトバンク株式会社が主催する「情報通信機器（スマホ等）の普及」の事業の協力のもと、実施した。
- スマホを持っている方が多い中、同じ体験をするため、開催側が用意した同じ機種で、体験してもらった。同じ機種を持つことで、混乱なく進めることができた。

### 分析・課題

- あらゆる情報が、スマホで手軽に入手できる中、高齢者は、情報難民となりつつある。高齢者の孤立防止のためにも、スマホを利用することに慣れ、抵抗感を軽減していくことが必要と考える。
- 1回の講座だけでは、抵抗感を軽減しつつ、スマホに親しむことは難しかった。2回目の講座実施も検討し、さらに継続した取組につなげていけるか検討したい。

### ③地域福祉コーディネーター（コミュニティソーシャルワーカー）との連携実績等

- 下石原小地域交流事業担当職員の打ち合わせに参加した。
- 地域包括支援センターちょうふ花園と地域支えあい推進員、地域福祉コーディネーター（CSW）との定例会に参加し、連携について検討した。
- 地域ケア会議「調布市の水害対策と避難行動要支援者の避難」に参加した。
- 民生児童委員との関わりの中で、要支援者の見守りのため、手工芸に関わる新しい活動団体を立ち上げることができた。

### 結果の概要

- 令和3年度より本格的に、小島町コーナーのエリアを担当する地域福祉コーディネーターと連携して、様々な取組に参加することができた。また、地域包括支援センターとの定例会にも参加し、地域の課題に触れる機会も持つことができた。
- 地域福祉コーディネーターとの連携の中で、小島町・布田エリアの民生児童委員とのつながりが持てたことにより、地域の課題を把握するきっかけができた。

### 分析・課題

- 地域課題にも今後より関わられるよう、地域福祉コーディネーターとの連携を強化していきたい。

(2) 菊野台コーナー

実績等

① 第29回菊野台ボランティアまつり

12月に開催された菊野台ボランティア連絡会で、開催は中止とした。

② 菊野台地域のつどい（小地域交流事業）

前年度検討した実行委員向け勉強会を開催する話もあったが、新型コロナウイルスの影響により、開催されなかった。

③ 菊野台ボランティア連絡会

12月に各ボランティア団体の代表が集まり、令和4年度の菊野台ボランティアまつりの開催について話し合い、中止を決めた。

④ スマホ de サロン

開催目的	スマートフォン操作を苦手とする高齢者が多く、緊急時に連絡できないことが無いようにすることと、コロナ禍で人と会う機会が少なくなっても、つながりが途切れないよう、ボランティアと一緒に操作方法を学ぶ。
開催日時	毎月第2、第4火曜日
会場	菊野台地域福祉センター 第2集会室
内容	スマートフォン操作の相談
参加者数	毎回8~10人

⑤ みんなでウクレレを弾こう！

開催目的	音楽に親しむ機会を提供することで、コロナ禍の閉塞感を和らげ、交流の機会を設ける。
開催日時	毎月第1、第3土曜日
会場	菊野台地域福祉センター 第2集会、大集会室
内容	ウクレレ演奏の基礎。合奏。6月より自主活動グループとなる。
参加者数	① 6人 ② 11人

⑥ 10の筋力トレーニング（10筋木曜会）

開催目的	外出の機会が減った高齢者のフレイル予防のため、地域包括支援センター至誠しばさきと連携し、運動の機会を設ける。
開催日時	毎週木曜日
会場	菊野台地域福祉センター 第1集会室
内容	10の筋力トレーニング（6月より自主活動グループとなる。）
参加者数	毎回10~15人

⑦骨盤調整とやさしいヨガの会

開催目的	高齢者に無理なく体を動かす機会を提供する。講師を迎えヨガを取り入れることで、コロナ禍の不安を和らげ、交流の機会を設ける。
開催日時	7月24日(土) 7月31日(土)、以降毎月第2、第4土曜日
会場	菊野台地域福祉センター 大集会室
内容	ヨガを取り入れたセルフ整体(10月より自主活動グループとなる。)
参加者数	毎回10~15人

⑧地域福祉コーディネーター(コミュニティソーシャルワーカー)との連携

結果の概要

- 地域包括支援センター等、地域のさまざまな団体との連携がとりやすくなり、地域の中の諸問題に対して多方面からの支援を行えるようになった。
- 地域の実情に応じた講座を開催することで、地域の方への継続した支援につながった。

実績等

- 地域連携会議 5月20日(木) 7月27日(火) 10月12日(火) 11月11日(木) 1月27日(木) 3月17日(木)
- 男性のためのプロが教える体カアッププログラム 10月5日(火) 10月19日(火) 11月2日(火)
- 初めてのスマホ体験「スマホの基礎と防災への備え」 10月30日(土)
- 人生100年時代のセカンドライフセミナー 3月19日(土)

分析・課題

- スマートフォンの講座を令和2年度に引き続き開催し、高齢者のスマートフォン操作に対するニーズをより深く知ることができ、スマホdeサロンの立ち上げにつながったが、相談を受けるボランティアの確保に課題が残る。

(3) 富士見コーナー

結果の概要

- コロナ禍での活動制限のストレスや不安、世間話をするために来所する人が多かった。必要があれば関係機関につなぎ、その後も声をかけ見守っている。
- 富士見コーナーを拠点とした13グループのボランティア、市民活動団体、ひだまりサロンが活動した。
- 感染症拡大防止の観点から、6月に予定していた地域の住民が参加できる世代間交流の場「富士見ふれあいのつどい」と、1月実施予定の小地域交流事業パート2「3世代で楽しむスポーツと音楽と遊び」が中止となった。
- 居場所として立ち寄るシニア男性の割合が比較的多く、コーナーが地域の情報交換の場の1つとして機能している。

- 『西部地域ネットワーク会議』（地域包括支援センターちょうふの里、西部公民館、民生児童委員、地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員、ボランティアコーディネーター）に参加し、地域の課題の共有と解決に向けての情報交換を行った。
- 野外で三密を避けて実施できるボランティア「わんわんパトロール」のPRを行った。  
東京都と調布市の広報に協力し、その結果ボランティア登録者が増加した。  
令和3年度『子供見守り活動事例集』（編集・発行 東京都都民安全推進本部総合推進部都民安全推進課）の取材に協力、ふじみパトロール隊と富士見コーナーの記事が掲載された。
- 合同防犯パトロールは、参加団体と顔の見える関係づくり、地域の情報交換の場となっている。

### 分析・課題等

- ひだまりサロンが地域が増えていく中、既存のボランティアグループの統廃合がゆっくと進んでいる。
- 見守りが必要となる高齢者が増えてきていることを地域住民自身が真剣に捉え、安心して暮らせるまちづくりのために、住民の手による自助活動や集う場づくりの必要性を感じる。
- 地域包括支援センター、地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員と連携をとりながら、地域全体で互いに見守りあう体制づくりに向けて、より現実に即した具体的な提案を行い、ボランティアグループとともに支援していきたい。

### 実績等

#### ① 令和3年度 富士見ふれあいのつどい（小地域交流事業を兼ねる）中止

開催目的	地域にある福祉団体や施設、学校、ボランティア団体が参加し、実行委員として企画・運営にかかわり交流を図りながら、ともに地域福祉の向上を図ることを目的として年1回開催している。
日時	中止
会場	富士見地域福祉センター（予定）

#### ② 認知症サポーター養成講座

日時	11月16日（火）14時～16時
主催	地域包括支援センターちょうふの里 調布市社会福祉協議会
会場	富士見地域福祉センター大集会室
内容	認知症の症状やその予防、認知症の人に接するときの心構え等を学ぶ。調布市立第五中学校ボランティアダンス部が協力した、オリジナルオレンジリングを配布。
参加者	受講者11人 地域包括支援センターちょうふの里3人 実習生1人 社協2人 ゆうあい福祉公社1人
協力	調布市立第五中学校ボランティアダンス部

### 分析・課題

- 市内全域から参加申し込みがあった。講座の需要があり、今後も実施できるよう検討したい。
- 当初計画していた9月は新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置等の期間にあたり

解除後の11月に実施した。

③地域福祉コーディネーター（コミュニティソーシャルワーカー）との連携

結果の概要

○地域福祉コーディネーターとの連携により、子ども関連の支援を中心に協力し、地域の声を拾い上げ、福祉活動の推進を支援した。

実績等

- フードドライブ、フードパントリーの食品収集や広報に協力した。
- こども食堂かくしゅうじの運営や周知について協力した。
- 富士見あおぞら子ども食堂運営や周知について協力した。

④地域支え合い推進員（生活支援コーディネーター）との連携

結果の概要

○地域支え合い推進員との連携により、地域のニーズや課題の掘り起こし、その後のこまやかな支援に向けて、協働、協力できた。

実績等

- ちょうふの里地域包括支援センターの事業に協力した。
- シニアのための「はじめてのスマホ体験講座」を実施した。
- 富士見町の合同防犯パトロール、畑づくりボランティアの会と連携して活動した。

⑤ シニアのための「はじめてのスマホ体験講座」

日 時	第1回 1月11日（月）14時～16時 第2回 1月31日（月）14時～16時（令和4年度に延期）
会 場	富士見地域福祉センター 大集会室
内 容	スマホをお持ちでない方、お持ちの方いずれも1人一台デモ機のスマホを借りて座学で学びスマホの使い方をわかりやすく無料で体験する。
講 師	ソフトバンク株式会社認定の講師
参加者	第1回 17人

分析・課題

- 新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置等の期間にあたる第2回は開催を延期した。
- 防災速報、災害情報、安否確認や連絡手段に役立つと参加者に伝えた。

(4) 染地コーナー

結果の概要

○地域住民の世代間交流の場として継続してきた「ボランティアまつり染地」は、長引くコロナ禍にあっては、昨年に引き続き開催を断念した。しかし、「ボランティアまつり染地」のスタ

アップも地域住民とともに楽しむことを目的とした「小地域交流事業パート2」については、「今、できることは何か？」を実行委員と共に模索し、12月に講座「「知っておくと役に立つ『相続』についての豆知識」を司法書士を講師に迎えて開催し、後日、動画配信した。

○コロナ禍で、交流の場を失った高齢者が不安を抱え、人のぬくもりや話し相手を求めてコーナーを訪ねてくるが増えた。話を伺う中で、外出自粛による運動部不足や、孤立化が進む中、「スマホ操作がわからない」という声を聴き、「スマホちょっと相談室 染地」「シニアヨガ」「司法書士による無料相談室」を企画、実施した。

○6月26日（土）、慈恵医大ボランティア論を受講している学生のボランティア体験先として、2つのボランティア団体に受け入れ依頼し、6人の学生がボランティア活動に参加した。看護師、保健師を目指す学生が体験を通し、視野が広がることを期待したい。

○地域支え合い推進員が中心となり、地域福祉コーディネーターとボランティアコーディネーターが連携・協働し、高齢化が顕著な多摩川住宅で、各棟がばらばらに活動していた高齢者の見守り活動を統一、住民同士の助け合いの仕組み「たまの手」が立ち上がった。広く地域に浸透し、継続できるよう、一層の連携を深めていきたい。

### 実績等

#### ① 高齢者の見守り《バリアフリー映画体験会》

開催目的	高齢者のゆるやかな見守り
開催日時	① 4月9日②5月14日③6月11日④7月9日⑤9月10日⑥10月8日 ⑦11月12日⑧12月10日⑨令和4年1月14日⑩3月11日 月1回 第2金曜日 13時30分～15時30分
会場	染地地域福祉センター 第1・2集会室
内容	男はつらいよシリーズを全巻観よう！！ 山田洋次監督作品
参加者数	毎回10～20人（スタッフ2人） ※コロナ禍で孤立する独居老人対象

### 分析・課題

○長引くコロナ禍にあって、高齢者の機能低下が著しい中、認知機能低下、持病の悪化等が気になる高齢者を地域包括と連携して介護制度に結び付けることができた。今後も孤立する高齢者の見守りの手段として、感染予防を徹底して継続して開催したい。

○ボランティア・市民活動のための場に限らず、高齢者が気軽に立ち寄り相談や情報交換できる窓口として広く開かれた居場所でいられるよう、引き続き取り組みたい。

#### ② 高齢者のフレイル予防《シニアヨガ》

開催目的	高齢者を対象に運動する場の提供
開催日時	令和3年 7月7日 お試し会 8月⇒3回（4日 午前・午後・21日） 9月⇒3回（1日 午前・午後 18日） 10月⇒3回（6日 午前・午後・16日） 11月⇒4回（3日 午前・午後 20日・24日） 12月⇒4回（1日 午前・午後 18日・22日）

	令和4年 1月⇒3回(12日・15日・26日) 2月⇒3回(2日・16日・23日) 3月⇒4回(2日・16日・23日・30日) 第1・3・4水曜日 9時30分～11時
会場	染地地域福祉センター 貸し出し室
内容	基本を大切に、高齢者に寄り添ったヨガを繰り返し体験する
参加者数	12人～15人(講師1人)

### 分析・課題

○長引くコロナ禍、外出に機会を失った高齢者の方々から「運動する機会を作って欲しい」との要望があり、染地で活動するヨガ講師に依頼し、実施し、活動団体となった。

「シニアヨガ」に参加されている方達は活発な高齢者が多く、新たな出会いがあり、参加者同士もつながることができた。この新たなつながりから、地域の新たな人材発掘となるよう支援していきたい。

### ③ 第24回 ボランティアまつり染地(小地域交流事業を兼ねる)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実行委員会で協議し中止とした。

### ④ 染地小地域交流事業パートⅡ

新たな地域とのつながりを模索する中で、高齢化が進む地域住民の方々(特に一人暮らしの方)から将来への不安に関する相談を多く受け、新たな取組として、司法書士に方の協力をいただき「相続に関する講座」を企画、後日動画配信することで、新たな地域をつなぐを試みた。

### ○相続に関する講座

知っておくと役に立つ役に立つ アレ!コレ!!『相続』についての豆知識

開催目的	新たな地域をつなぐを考える 「相続」に関する知識を身に着ける
開催日時	12月4日(土) 10:00～12:00
会場	染地地域福祉センター 大集会室
内容	新たな小地域交流事業の取組として講座、動画配信を試みた。 「相続」について、「遺言書の書き方」等地域住民の方の相談内容に寄り添ったテーマで講座を開催した。 質疑応答の時間を多く取り、個人的な質問にも答えていただけるよう配慮した。
参加者数	41人(関係者6人)

### ○司法書士による無料相談会

開催目的	高齢者が抱える様々な将来への不安に寄り添う
開催日時	① 令和4年1月20日②2月17日③3月17日 10:00～11:00(1人) 11:00～12:00(1人) ※予約制
会場	染地地域福祉センター 大集会室

内 容	新たな小地域交流事業の取組として講座、動画配信を試みた。 「相続」について、「遺言書の書き方」等地域住民の方の相談内容に寄り添ったテーマで講座を開催した。 質疑応答の時間を多く取り、個人的な質問にも答えていただけるよう配慮した。
参加者数	① 2人②2人③2人

⑤ 地域福祉コーディネーター（CSW）との連携

結果の概要

○地域福祉コーディネーターとの連携により、地域のニーズの掘り起こしや、細やかな支援が可能となった。コロナ禍にあって孤立する高齢者を対象に、スマートフォンに関する相談室を立ち上げることができた。

○スマホちょっと相談室 染地

日時	① 4月10日②5月8日③6月12日④7月10日⑤10月2日⑥10月9日 ⑦ 11月13日⑧11月18日⑨11月26日⑩12月11日 ⑪令和4年2月12日⑫3月12日 14:00~15:00 3人 15:00~16:00 3人 ※予約制
会場	染地地域福祉センター ボランティア室
内容	各スマホ会社で無料の講座を開催しているが、個別対応は難しい状態にある。実際にスマホを使って「操作がわからない」に対して、個々の質問に答える仕組みづくりとして相談室を立ち上げ、高齢者の社会参加を促すことが目的。
参加者	毎回6人まで ※予約制 (ボランティア3人)

分析・課題

○スマートフォンを使いこなすことで、コロナ禍での家族、友人とつながる手段となるように支援する。  
○災害情報等、情報収集の手段として日頃から慣れ親しむことが大切であることを伝える。

⑥ 地域支え合い推進員（生活支援コーディネーター）との連携

実績等

○コロナ禍で外出自粛が叫ばれ、運動する機会や人と会い、おしゃべりする機会を失った高齢者の機能低下問題を地域支え合い推進員と共に連携し、地域包括支援センターも巻き込み「10の筋肉トレーニング」の継続支援、新たに地域包括支援センター主催する「体力測定会」に協力、参加者の意力向上を図った。

○高齢者のフレイル対策

目 的	高齢者のフレイル対策とゆるやかな見守り
日 時	染地筋トレ通う会 毎週火曜日 10時~正午 全36回
会 場	染地地域福祉センター 第1・2集会室

内 容	介護予防「10の筋力トレーニング」を実施 ※コロナ禍であっても感染防止対策を徹底して、継続実施した結果、身体を動かす場所を探す方達の居場所となっている。
参加者数	毎回 15～22 人

分析・課題

○昨年、地域支え合い推進員と連携し、10の筋肉トレーニングを地域に紹介「染地筋トレ通う会」として自主団体となり、地域福祉センター利用団体登録も済ませ、活動を継続している。毎回、定員を上回る参加希望者があり、新たな「染地ふれあいの家」でも10の筋肉トレーニングを開催するに至る。どちらも定員を上回る参加者で高齢者の運動に関する関心の高さを強く感じた。

## ⑦ すぎもり地域学校協働本部との連携

結果の概要

地域と学校が連携・協働し、地域全体で子どもの成長の支援を積極的に推進していくことを目的にした「すぎもり地域学校協働本部」の地域コーディネーターからの依頼を受け、杉森小学校家庭科の授業補助、調布市立第三中学校学習支援として地域で活動しているボランティアを紹介した。

## ○すぎもり地域学校協働本部との連携

目 的	地域と学校が連携、子どもの成長を支援する
日 時	○杉森小学校（家庭科・6年生）①9月28日②9月29日③9月30日④10月26日 ④ 10月27日⑥10月28日 （家庭科・5年生）①10月11日②10月13日③10月14日④10月15日 ⑤ 10月19日⑥10月22日 ○杉森小学校（就学時検診）10月21日 ○杉森小学校（調理実習支援）①12月8日②12月9日③12月14日 ○第三中学校（学習支援）①11月24日②12月1日
会 場	杉森小学校内家庭科室 第三中学校内理科室
内 容	○杉森小学校：行事展示会に展示する5年（キルティング生地で作るリュックサック）・6年（刺し子のクッション）ミシン縫いの補助や調理実習の補助 ○第三中学校：中学1年生を対象に英語・数学を中心した学習支援
ボランテ ィア数	すぎもり小学校 各2人 第三中学校 1人

分析・課題

○以前、杉森小学校長から依頼を受け、課題等のマル付けボランティア、教室での見守りボランティアを5年継続し、活動した経緯があるが、昨年「すぎもり地域学校協働本部」の仕組みができ、地域コーディネーターからの依頼を受けた。ボランティアも、地域の子どもたちとの触れ合いの機会を楽しみながら協力できた。今後も地域コーディネーターと連携して地域全体で未来を担う子どもの成長を応援していきたい。

(5) 緑ヶ丘コーナー

結果の概要

- 小地域交流事業「緑ヶ丘ふれ愛の集い パート1」は実行委員会を3回開催したが、コロナまん延緊急宣言により、見送られた。
- 地域福祉センターを利用していた、ひだまりサロン活動は高齢者中心のグループは中止が多く代表が代り継続する団体もある一方で、一団体は、令和3年度で活動を終えた。  
合唱や健康麻雀等のサロンは、市の規制にあわせながら活動を行っていた。
- 高齢者が多く参加される、10筋体操やコーナーで活動するボランティアグループ等は、反対に参加者が増える傾向があった。
- 特に新しい団地へ移り住んだ住人の、孤立化の問題が目立つ。団地に住むボランティアさんが異変に気づき、コーナーが連絡を受け、民生児童委員や自治会、地域包括支援センターへ繋がった事例が数件あった。地域の何気ない日頃の見守りの大切さを感じた。
- 地域包括支援センターつつじヶ丘で毎月定期開催される、地域連携会議へ出席することで、地域の状況や課題を把握して共有することができた。
- 地域の地域福祉コーディネーターや地域支えあい推進委員とは、仙川オレンジカフェや、仙川POSTOで開催される「健康広場」「仙川スープ」他にも、「スマホをもっと楽しむ会」等連携を取りながら行った。
- 緑ヶ丘小学校3年生、第8中学校2年生へ向けた、「認知症サポーター養成講座」を年に1回開催が定期的に行われるようになった。(包括とゆうあい、社協の協働開催。)
- 令和2年度より発行している地域の方々へ向けた情報誌「緑ヶ丘だより」のNO.6、NO.7を作成した。
- 東京ボランティア・市民活動センター開催の講座等へ、Zoomで受講することが出来た。
- 社協の実習生や慈恵医大の実習生をコーナーで受け入れ、ボランティア団体へ参加してもらって体験の場を幾度か持った。

① 第20回緑ヶ丘・仙川ふれ愛のつどい(ボランティアまつり・小地域交流事業)

結果の概要

- コロナのため、パート1・2共に中止。

② 「2022 夏休み親子体験！」の実施

※緑ヶ丘ボランティア連絡会とおせっかい広場との共催

結果の概要

- コロナの為開催せず。

③ 「認知症サポーター養成講座」の開催 ※地域包括支援センターつつじヶ丘と共催

結果の概要

- 緑ヶ丘小学校3学年対象に開催  
日時：2月8日(月)

参加者：生徒 84 人（うち 10 人は自宅でリモート受講）

つつじヶ丘包括、ゆうあい公社、社協協力

○第八中学校 2 学年対象に開催

日時：4 月 27 日（火）

参加者：生徒 97 人

地域寸劇劇団「G2 カイズ」の協力参加 5 人 他ゆうあい、包括、社協の協力

#### ④「スマホをもっと楽しむ会」と名称を改め開催

○令和 2 年度開催した、スマホ講座を月一回定期的におこない、自主グループ化に向けた支援を、地域福祉コーディネーター、地域支えあい推進員との連携で行った。メンバーはリモートで繋がり、LINE で顔を見ながら交流を続けている。

##### 結果の概要

○メンバーは高齢者だが、スマホの使用に慣れ、LINE で繋げとことで、毎月一回、ハイブリッドでの開催が可能になった。

○今後は教える側のメンバー募集に力を入れ、地域の方々への「つながる」ツールとして、活動が定着するよう、見守り支援をしていきたい。

#### ⑤ 地域包括支援センターつつじヶ丘・地域福祉コーディネーター（CSW）・地域支えあい推進員との連携

##### 結果の概要

○地域包括支援センターつつじヶ丘にて、地域福祉コーディネーターと生活支援コーディネーター、ゆうあい福祉公社、コーナーが、月に一回の地域連携会議を行った。情報提供等、地域の問題・課題を共有することができた。

○緑ヶ丘小学校と第 8 中学校にて、認知症サポーター養成講座を協働して開催した。

○仙川 POSTO にて、10 筋体操と音楽リトミックを取り入れた、「健康広場」を開催し、参加者の見守り等協力しながら行った。

○月に一回の「仙川オレンジカフェ」はほぼ毎月開催、認知症カフェの役割を担いながら、スタッフは、市内の認知症予防の集まりへも積極的に参加、周知活動に協力している。

#### ⑥ 地区協議会「まちづくり協議会」との関わり

##### 結果の概要

○4 月から 3 月まで会議、イベントすべて中止となった。

#### (6) 西部コーナー

##### 結果の概要

○令和 3 年度も小地域交流事業「ふれあいのつどい」、第五中学校のボランティアダンス部による「心も体も温まる地域交流祭」は開催することは出来なかったが、地域の情報を届ける「ふれあいだより」を作成、ボランティアダンス部の地域交流祭は来客者人数制限した小規模開催

を試み、地域とのつながりを無くさないための取組があった。

○休止していた活動団体も少しずつ再開し始め、感染状況に応じ活動内容を創意工夫しながら実施。団体の代表者の不安な気持ちに寄り添い、感染防止対策を講じ安全な活動が出来るように支援した。

○感染症拡大の影響により孤立化が進み、高齢者ご本人や介護者から不安の声等を聴くことが多くなった。特に認知症に関してのご相談が増えている。必要があれば関係機関につなぎ、その後も声かけや見守りを続けている。

○西部地域福祉センターは、府中市との境にあり、府中市民も利用が多く、生活相談だけでなくボランティア相談もあった。今後も府中市の機関や活動団体との連携を取り、ご相談者の対応をしていきたい。

### 分析・課題

○今年3月で au の 3G 携帯が利用できなくなり、今後ソフトバンク、ドコモも続き、高齢者には切実な問題となっている。スマホの買い替えにより電話もうまく使えなくなり不自由になったと言う声も聞いている。シニアのための「はじめてのスマホ体験講座」を開催したが、継続して相談できる取組が必要である。

### 実績等

#### ①『西部ふれあいのつどい』（小地域交流事業）

開催目的	地域の方々、活動団体、学校、福祉団体、が参加し、実行委員が企画・運営にかかわり交流を図りながら、ともに地域福祉の向上を図ることを目的として年1回開催している。
開催	中止
実行委員会	4回開催（会場の人数制限があり主要な委員のみ出席）
代替案	2年間開催できず、このままでは地域の繋がりを無くなってしまうと実行委員会にて代替案を検討。地域の情報を紹介する「西部ふれあいだより」を作成し発行することになる。自治会、第三小学校、飛田給小学校、第五中学校、西部公民館、児童館に配布した。

#### ②第五中学校ボランティアダンス部生徒による『心も体も温まる地域交流祭』

開催目的	地域の方々と仲良くなりたい、交流したいという目的で第五中学校ボランティアダンス部の生徒達が企画・運営し交流祭を開催。
開催日	3月13日(日)
結果	大勢集まることは無理であることから来客者人数を制限し小規模の交流会を企画。今回は引退した3年生も出演となり受験を終えた3月13日に開催予定とした。まん延防止重点措置延長により部活動が禁止となり練習が出来ない為に中止に至った。
追加案	令和4年度、2年生が進級し引退となる前に開催することを顧問の先生とご相談。

	学校の許可を得て見学を兼ねた地域福祉センターにて令和4年度の交流会の為のミーティングを3月13日に行うことにしたが、まん延防止重点措置の再延長により中止となった。
--	---

### 結果の概要

○地域交流会は開催できなかったが、地域包括支援センター「ちょうふの里」から依頼の認知症月間に講座参加者に配布するオレンジリングを作成するボランティア活動に参加してもらった。ボランティアダンス部独自に地域包括支援センター「ちょうふの里」の認知症月間に関する認知症サポーター養成講座が行われた。

### 分析・課題

- 地域交流会は開催することはできなかったが、企画段階でボランティアダンス部と連絡を取り合うことにより関係性を維持でき、交流祭以外の認知症月間配布用のオレンジリング作成のボランティア活動につながった。
- 中止により生徒達のモチベーションが下がらないよう、令和4年度新3年生の引退前に地域交流祭を開催することを目標とすることを顧問の先生と相談して決定した。

### ③高齢者インタビュー

目的	高齢者理解と交流
日時	7月1日(木) 2時間目、3時間目
会場	飛田給小学校 特別活動室
内容	生徒達から事前に受けた質問に高齢者の方々に答えてもらい、その答えについての感想を生徒から述べてもらう。
参加者	地域の高齢者 2人、4年生1組、2組、3組

### 結果の概要

○令和4年度より授業のカリキュラムに組み込まれることになった。

### ④お話とどけ隊「カラコエの花かご」団体立ち上げ支援

活動目的	お話会を通して地域の交流を図る。 地元(調布)のお話を地域に広める。
活動内容	現況下で可能な方法でお話し会、読み聞かせをする。 西部公民館に保管してある調布の民話の紙芝居(「絵本と童話の会」作成)、絵本(調布在住の作者の作品)をYouTubeで動画配信。 今後、感染状況が良くなった場合には地域の方が集まれる場所でお話会を開催。
活動者数	2人

⑤地域福祉コーディネーター（CSW）、地域支え合い推進委員との連携  
実績等

小学校の認知症サポーター養成講座への協力

開催日時	6月25日（金） 1時間目、2時間目
主催	地域包括支援センター ちょうふの里、サブセンター
会場	飛田給小学校 体育館
内容	認知症についての解説、寸劇、アンケート（受講前、受講後の変化）
参加者	地域包括支援センターちょうふの里4人、社協3人 ゆうあい公社2人、生徒4年1組、2組、3組

地域の認知症サポーター養成講座

日時	11月16日（火）14時～16時
主催	地域包括支援センターちょうふの里 調布市社会福祉協議会
会場	富士見地域福祉センター大集会室
内容	認知症の症状やその予防、認知症の人に接するときの心構え等を学ぶ。 調布市立第五中学校ボランティアダンス部が作成協力したオリジナルオレンジリングを配布。

シニアのための「はじめてのスマホ体験講座」

日時	第1回 10月13日（水）14時～16時 第2回 10月27日（水）14時～16時
会場	西部地域福祉センター 大集会室
内容	デモ機のスマホを全員に配布 スマホの使い方をわかりやすく無料で体験。
講師	ソフトバンク株式会社認定の講師
参加者	第1回 7人、 第2回 9人

結果の概要

○まん延防止等重点措置で会場の人数制限が出た場合にも対応できるよう少人数の定員にした。  
受講者の人数が少なく講師とアシスタントが丁寧に対応することが出来、参加者の満足度が高かった。

分析・課題

○初めてのスマホ講座は、地域の高齢者のニーズに合った企画だが、継続して相談できる取組が必要である。

10の筋力トレーニング体験会

開催目的	外出の機会が減った高齢者のフレイル予防のため、地域包括支援センターちょうふの里サブセンターと連携し、10の筋力トレーニング新団体立ち上げの支援を行う。
------	---

開催日時	第1回 1月12日(水) 第2回 2月9日(水)中止、第3回 3月23日(水)中止
会場	西部地域福祉センター 大集会室
内容	10の筋力トレーニング
参加者数	第1回 17人

### 結果の概要

- コロナ禍運動不足になりがちということで体操講座を望んでいる方が多く、参加者は直ぐに集まった。
- まん延防止重点措置延長により、2月、3月の体験会は中止となった。  
4月以降に再度体験会を開催する予定。

### 分析・課題

- 体験会が終了後、今後活動を続けていくには参加者の中から活動の中心となる人が必要。

### ⑥地域との連携

- 『西部地域ネットワーク会議』

地域包括支援センターちょうふの里、サブセンター、西部公民館、社協（地域福祉コーディネーター、地域支え合い推進員、西部コーナー、富士見コーナー）を年3回定期的に開催してきたことで、顔の見える関係になり、連携がとりやすくなっている。

第1回 7月26日(月)、第2回 10月26日(火)、第3回 3月22日、

第3回は感染状況の影響に関係なく確実に開催できるよう Zoom 開催となった。

### (7)野ヶ谷の郷

#### 結果の概要

- 梅の湯商店会の空き店舗を利用して、平成16年11月1日にオープンした市民活動支援センターのランチ。他のコーナーとは異なり、コーディネーターを配置せずに市民（野ヶ谷の郷運営委員会）が運営している。

#### 【概要】

機能	① ボランティアビューロー機能 ②貸スペース機能 ③福祉ショップ機能 ④地域活動拠点機能 ⑤活動発表ギャラリー
開設日	火・木・土曜日（年末年始を除く）※ボランティアスタッフが当番で開設
貸出日	毎日（年末年始を除く）
スタッフ	41人（うち役員7人）

### 実績等

#### ①総会・スタッフ交流会

- ※感染症拡大の影響を受け、令和2年度に引き続きスタッフ交流会は中止、総会はスタッフから

委任を受け、役員会によって承認・決議した。

日 時	4月16日（金）10時00分～正午
内 容	以下の議案を提案し、承認された。 ・令和2年度事業報告・令和2年度決算 ・令和3年度事業計画（案）・令和3年度予算（案） ・令和3年度役員（案）
参加者	出席7人、委任状提出34人

### ②野ヶ谷の郷運営委員会役員

代表	四家 綾子	会計監査	百合田 紀恵子	役員	小阪井 真樹子
副代表	小澤 康史	役員	平柳 千鶴子		
会計	磯野 幸子	役員	石川 規子		

○感染防止対策を講じ、役員会6回と梅の湯コンサート実施に向けた臨時役員会を1回開催した。

○野ヶ谷の郷だよりは、感染症拡大の影響を受け、従来通りの事業実施ができなかったため、令和3年度も発行は1回のみとなった。

### ③ボランティアスタッフによる独自活動

内 容	開催日時
絵を描こう会	第1・第3土曜日
パッチワークの日	第4木曜日
折り紙の日	第4火曜日
お直しの日	第2・4土曜日
パソコン教室	第4土曜日
やってみよう！野ヶ谷の郷	開所日の16時～17時

#### 分析・課題

○新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、地域イベントの多くは中止となったが、梅の湯との共催で11月22日（月）に梅の湯の男湯浴室内で「クラシックコンサート」を実施した。地域の高齢者を中心とした50人以上の参加があり、盛況だった。久しぶりに対面できたという方も多く、非常に喜ばれた。

○独自活動は、感染防止の観点から、飛沫感染のリスクがある「ふれあいランチ」の再開を見送った。その他の活動については、感染防止対策を徹底し、概ね実施することができた。

○野ヶ谷の郷ボランティアスタッフの高齢化が課題となっているが、新たなスタッフの参加もあり、スタッフの減少はなく運営できている。役員の代替わりも見据え、令和4年度は新役員の登用も予定しているが、引き続き多様な世代が関わる地域の居場所を目指し、周知の強化や運営の工夫が必要である。

## 第2 情報・資料の収集及び提供

### 1 えんがわだよりの発行

#### 結果の概要

- ボランティア募集や市民活動に関する話題を取り上げる機関誌として発行した。
- その時その時のボランティア・市民活動情報をタイムリーに提供するため、年11回発行した。
- 多くの方に手にしてもらおう工夫として、関連講座、事業等の参加者に配布を心掛けている。
- えんがわだよりを手に取った方が「関わられる・関わりたい」と思えるニュースレターを目指す。
- 特集記事の作成にあたり、職員が様々な団体の活動の現場に伺い、見学・取材することで、紙面の充実と団体との関係性の構築につながっている。
- 明るく、見やすい紙面を目指しレイアウトデザインに工夫を行っている。

#### 【概要】

発行目的	「市民参画による住み続けたいまちづくり、未来への希望が持てる社会の実現」を目指して、市民活動への市民の理解や参加を促進するとともに市民活動団体の活動の発展をはかる。また、記事づくりを通し新たな人々との関係を構築する。
編集方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市民活動の情報を収集・提供し、市民活動の裾野を広げていく。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動等の市民活動について、分かりやすい内容と切り口で紹介し、市民への理解と参加を促進する。</li> <li>・活動者・関係者の事業に役立つ具体的な情報を提供する。</li> <li>・市民活動団体の情報発信源となる。</li> </ul> </li> <li>○社会課題・地域社会に対して読者とともに考えていく。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会課題にとりくむ市民活動等を通して、地域社会の現状と将来について考えていく。</li> <li>・さまざまなネットワーキングを通して、地域や人との課題を掘り下げながら、地域と人のつながりのあり方を考えていく。</li> </ul> </li> <li>○市民活動支援センターの考えや方針を伝えていく。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・センター事業の報告等を通じ、センターの取組を紹介する。</li> </ul> </li> </ul>
発行日	毎月15日発行
発行部数	毎月1,300部
配布先	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内公共施設、市内小・中・高等学校、市内大学</li> <li>・市民活動支援センターサポーター</li> <li>・東京ボランティア・市民活動センター他都内ボランティア・市民活動センター</li> </ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特集記事（地域の市民活動団体紹介、社会課題の取組紹介等）</li> <li>・ボランティア募集</li> <li>・お知らせ（地域の市民活動情報、助成金情報等）</li> <li>・センターからの発信（コーディネーターの感じた事、周知したい活動紹介）</li> </ul>

実績等

## 各号の特集記事の内容

号数	内容
4月号 (No.176)	愛着ある街でともに新たなライフスタイルを
5月号 (No.177)	であい、ふれあい、支え合い
6月号 (No.178)	災害への備え 災害ボランティアセンターと災害ボランティア
7月号 (No.179)	地域に広がる 新しいメロディー
8月号 (No.180)	染地の1歩 『できないこと』から『できること』に目を向けて前へ進もう！
9月号 (No.181)	誰もがふらっと立ち寄れる小さな図書館 えんがわ文庫 今秋 OPEN
10月号 (No.182)	ちょうふチャリティーウォーク まちをもっと好きになる
11.12月号 (No.183)	地域とのつながりが 私のウェルビーイング
1月号 (No.184)	地域とのつながりが 私のウェルビーイング
2月号 (No.185)	みんなで作るみんなの居場所 しばさき彩ステーション
3月号 (No.186)	えんがわファンド・はじめの一步 わたしもできる まちづくり

分析・課題

- 読みやすい紙面となるよう、文字の大きさ、行間について工夫を行った。
- 読者のニーズに合った情報を提供できるよう、毎月新しい情報を掲載するようにしている。
- 特集記事において、長期的な計画をたて、余裕をもったスケジュールで作成した。このことにより、掲載内容についての十分な確認期間が取れるようになった。
- より多くの人に興味をもってもらうために様々な視点からの特集記事を組めるよう、多くの団体との繋がりをさらに築いていきたい。

## 2 えんがわだよりオンライン（えんがわだよりブログ版）

結果の概要

- 平成20年3月より、シーサー株式会社運営無料ブログサイトを活用し、Web上でえんがわだよりの配信を行っている。

### 3 市民活動支援センターホームページ運営

#### 結果の概要

- より多くの市民が市民活動にかかわるきっかけを得る媒体として役立てるため、市民活動支援センターのホームページを運営した。
- 市民活動団体の情報の受発信（イベント予定や内容の報告、新規メンバー、ボランティア・参加者募集等）を支援すると同時に、「調布市生涯学習情報コーナー」「ちょうふ地域コミュニティサイトちょみっと」と連動し、より多くの市民が市民活動に関わるきっかけを得る媒体として情報の共有化、ページの見易さ、使い易さを工夫している。
- 登録団体数について、市内の特定非営利活動法人調布市地域情報化コンソーシアム（GLIC）や、地区協議会、調布市立図書館の情報発信事業である「市民の手によるまちの資料情報館」のサイトと情報共有を図り、現在 577 団体がセンターの団体ページを公開している。（他に、活動休止、廃止等の団体の事情により、ページ登録中の非公開団体が 292 団体）
- 主な項目は、「団体検索」「イベント・講座」「市民活動（NPO/地域活動）とは」「寄付・助成金」「ボランティア情報」「企業の社会貢献（CSR）」「センター利用案内」等である。
- 調布市が平成 29 年 4 月から始めた「ちょうふ地域コミュニティサイトちょみっと」とのシステム連動で、「団体登録」「イベント情報」が連動して掲載されることになっている。

#### 実績等

- ホームページアクセス数については、過去の報告の中で、トップページへのアクセス数のみを掲載した年度と、トップページ以外のイベントページ等を含んで掲載していた年度があり、情報の一貫性に欠ける状況があった。そのため、過去5年間に遡りトップページのアクセス数について掲載することにした。

#### トップページのアクセス数（件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
H29年度	2,757	2,451	2,917	2,707	2,051	1,731
H30年度	1,786	1,948	2,710	2,725	2,007	1,618
R1年度	1,550	1,556	2,436	2,412	1,698	1,548
R2年度	1,312	1,774	1,949	1,764	1,903	1,549
R3年度	3,622	2,487	1,717	3,064	1,707	1,576
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H29年度	1,700	1,710	1,466	1,522	1,509	1,870
H30年度	1,852	1,778	1,494	1,456	1,594	1,723
R1年度	8,266	1,772	1,393	1,390	1,501	1,714
R2年度	1,610	1,291	1,220	1,227	1,397	2,244
R3年度	1,792	1,664	1,254	1,264	1,448	1,628

- アクセス解析で、Google アナリティクス（Web アクセス解析ツールの名称）は 30 分以内のアクセスは1アクセスとしてカウントしている

## 分析・課題

○トップページへのアクセス数は、令和2年度との比較で見ると多くの月でアクセス数が増加しているが、過去5年間で比較すると概ね横ばいという状況。市民活動に興味・関心を持ってもらえる内容の充実が必要である。

○例年、サマーボランティアの実施によって6月から8月のアクセスが増加傾向にあるが、令和3年度は4月5月のアクセス数も増加傾向にあった。これは、ふくしの窓（R2年度3月号）でセンターの特集記事を掲載した効果と、まん延防止重点措置や緊急事態宣言の発出に伴い、センターの利用状況についてアクセス数が増加したためと考えられる。

## 4 資料コーナーの充実

より多くの市民がボランティア・市民活動に関わるきっかけを得る媒体のひとつとして役立てるため、市民活動支援センターに資料コーナーを設置している。

### 結果の概要

○ボランティアやNPO関連のみならず、幅広い分野のチラシやポスターを配架、掲示したことで、多様な活動情報を提供した。調布市のみならず、都内で市民活動の拠点となっているセンターや施設、団体のニュースレターを閲覧と保存のため分野分けをしている。

○サポーター会員になっている団体専用のチラシラックを設置し、広報の支援を行った。

○令和2年度は購入できなかったボランティア・市民活動に関連し、話題となっている図書や活動への参加のきっかけとなるような図書を購入し、閲覧用本棚に配架した。

### 実績等

#### (1) チラシ等受入数内訳（令和3年4月～令和4年3月）

内容	R 3	R 2	分野	R 3	R 2
講座・講演	268	241	ボランティア・市民活動支援	163	225
イベント	97	89	福祉・保健	172	153
ボランティア募集	17	22	災害	26	37
スタディツアー・キャンプ	0	0	まちづくり・地域安全	47	61
寄付・募金	9	3	人権・国際協力・男女共同参画	73	65
団体・活動紹介	75	55	社会教育	17	14
スタッフ・メンバー募集	62	31	環境保護	33	29
助成金	53	68	文化・芸術・スポーツ	106	94
その他	56	94	子ども	55	52
計	637	603	その他	86	74
			計	778	804

体裁	R 3	R 2
チラシ	487	479
ポスター	134	140
パンフレット他	93	91
計	714	710

(2) ニュースレター受入数内訳（令和3年4月～令和4年3月）

分野	R 3	R 2
ボランティア・市民活動支援	85	83
福祉・保健	43	40
まちづくり・地域安全	14	13
人権・国際協力	12	10
環境保護	8	9
文化・芸術・スポーツ	10	7
災害	3	4
こども	6	7
その他	7	7
計	188	180

(3) 定期購読雑誌の受入数内訳

誌名	出版社	刊行頻度
ネットワーク	東京ボランティア・市民活動センター	隔月刊
ウォロ	大阪ボランティア協会	年6回
月間福祉	全国社会福祉協議会発行	月刊
ホームレスの仕事をつくり自立を 応援する「ビッグイシュー日本版」	ビッグイシュー日本発行	月2回

(4) 閲覧用図書・機関団体等報告書類の新規受入れタイトル

内容	R 3	R 2
市民活動支援、NPO 設立ガイド等	31	5
福祉関連	8	3
災害	4	1
その他	6	1
計	49	10

### 分析・課題

- 配架依頼、掲示依頼が多数あり、資料コーナーが雑多な印象になりやすいため、期限切れ資料の撤去を随時行う等、情報の整理に注力した。
- 引き続きわかりやすく整理整頓することを心掛け、見やすく手に取ってもらえるように改善を継続する。

## 5 多様なメディア（媒体）と連携した情報提供

### 結果の概要

- J-COM株式会社（CATV）、調布エフエム株式会社、タウン誌（182ch）、地域ポータルサイト（ちょうふどっとこむ・ちょみっと）等の協力を得て、多角的な情報提供に取り組んだ。
- ふくしの窓では、毎月ボランティア情報等を「伝言板」として掲載している。
- 調布市協働推進課が発行している『地域活動情報誌じょいなす』においても多くの情報提供を行っている。
- 広報媒体として大きな力のある調布市報で、必要な情報提供を行っている。
- センターの公式 Twitter を運用し、タイムリーな情報提供を行っている。令和4年3月31日現在のフォロワー数は、390人となっている。

## 6 市民活動団体リストの発行

### 結果の概要

- 「令和3年・4年度市民活動団体リスト」を作成し、配布を行った。掲載団体数は420団体。
- 調布市生涯学習情報コーナーと協力し、市内のボランティア・市民活動団体（NPO法人含む）の紹介冊子を配布した。

## 第3 ボランティア・NPO・市民活動団体、個人の活動支援

### 1 スペース・設備の貸出し

#### 結果の概要

- 市民活動団体の会議、作業、打ち合わせ等、様々な目的に応じてスペースの貸出しを行った。

#### 実績等

##### (1) 市民活動支援センター（国領）来館者及びはばたき利用状況

□来館者数(人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
来館者数	1,998	1,280	4,108	3,646	1,934	2,059
一日平均	71	56	142	122	67	71
前年同月比	480%	471%	136%	68%	85%	76%
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

第2部 ボランティア・市民活動の推進

来館者数	7,871	2,607	2,440	2,310	2,064	2,401
一日平均	262	90	90	86	79	80
前年同月比	277%	93%	101%	136%	108%	127%

□ 活動スペースはばたき・OAコーナー利用者数（人）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
月間利用者	1,486	956	1,539	1,609	1,560	1,687
一日平均	53	42	53	54	54	58
前年同月比	令和2年 4月休館	令和2年 5月休館	98%	85%	86%	75%
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月間利用者	1,937	1,873	1,700	1,651	1,459	1,603
一日平均	65	65	63	61	56	53
前年同月比	82%	81%	88%	126%	92%	108%

□ 年間来館者・利用者数総計と利用内訳

【総利用者数・相談件数】

	令和2年度	令和3年度	前年度比
来館者数(人)	27,605	34,718	126%
利用者数(人)	18,532	19,060	103%
相談件数(件)	365	431	118%

○令和3年4月12日（月）から令和3年4月24日（土）、まん延防止重点措置発令措置

○令和3年4月25日（土）から令和3年6月20日（日）、緊急事態宣言発令措置

○令和3年6月21日（月）から令和3年7月11日（日）、まん延防止重点措置発令措置

○令和4年1月21日（金）から令和4年3月21日（月）、まん延防止重点措置発令措置

○令和2年度に続き、新型コロナウイルス感染拡大により、活動を懸念する利用者が増えた。

○東京都都議会議員選挙期日前投票 令和3年6月29日（火）から令和3年7月2日（金）

○東京都衆議院議員選挙期日前投票 令和3年10月26日（火）から令和3年10月29日（金）

	令和2年	令和3年	前年度比
活動、会議、打ち合わせ	11,236人	9,989人	89%
パソコン利用	1,775人	2,437人	137%
学習	5,283人	6,435人	122%
印刷機	238人	199人	84%
合計	18,532人	19,060人	103%

展示（壁）	8件	9件	113%
展示（その他の場所）	2件	1件	50%
合計	10件	10件	100%

## 【利用者数内訳】

結果の概要

- 令和2年度に続き、三密を避けるため椅子や机の数、配置を調整し、感染防止対策を行った。
- 令和3年4月27日（火）から令和3年5月11日（火）は緊急事態宣言発令措置により人流を抑制するため、あくろすを全面休止した。
- 除菌効果のある小型の折り畳み洗濯機（事務所内）、空気清浄機（えんがわ文庫）等、令和2年度に引き続き感染防止対策の徹底に努めた。

分析・課題

- 活動スペース「はばたき」は、団体・個人とも調布市内だけでなく、他市からの利用も多く、便利であると認知されている。
- 令和2年度に続き感染症拡大の影響のため、活動を懸念する利用者が増え、活動を自粛する団体が多かった。
- 感染防止のため、利用する団体や個人への注意喚起を継続して運営を行う。
- 解体したえんがわ設備のスペースの活用方法を検討し、利用者同士の交流や、センター職員と利用者の交流を一層深めるための場「えんがわギャラリー」を令和4年度の4月から運用できるよう、準備に着手した。
- 壁面展示スペースの活用については、展示期間中の休館日をしっかりと周知する必要がある。
- パソコンコーナーについては、市民活動・ボランティア活動の支援という本来の目的以外の活用が多いが、現状の対応で特に課題は感じられない。
- ちょみっとの周知は行っているが、実際の利用が促進できていないため、普及啓発に努める。

## (2) ボランティアコーナー（ランチ）来所者数

拠 点	来所者数	
	人数	一日平均
小島町コーナー（週5日）	*ボランティア活動室利用者数 1,604人	4.1人
菊野台コーナー（週3日）	1,379人	9.1人
富士見コーナー（週3日）	1,999人	13.8人
染地コーナー（週5日）	3,420人	16.4人
緑ヶ丘コーナー（週3日）	2,402人	16.1人
西部コーナー（週5日）	1,941人	7.3人
合計	12,745人	11.1人

### (3) ロッカー、メールボックス、倉庫2スペースの貸し出し（国領）

#### 結果の概要

- 活動室内に設置されているロッカー、メールボックス、倉庫2の空きスペースを希望する市民活動団体に貸出を行った。
- ロッカーの利用率は高いが、メールBOXは利用率が低い。有効活用するための幅広い検討が必要である。《利用率：ロッカー 94/108 メールBOX 38/168》
- 倉庫2スペースは、ほぼ満杯状態となっている。

#### 実績等

内 容	R3 年度	R2 年度
ロッカー利用団体	94 団体	99 団体
メールボックス利用団体	38 団体	37 団体
倉庫2 空きスペース利用団体	16 団体	16 団体

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響等により、長期間に渡って活動自粛や無来館となっている団体のうち、7団体がロッカーを返却（令和2年度は⑫団体）した。
- 倉庫2スペースについて、申請希望の有った団体が4月20日（火）の抽選会に参加し、16団体が利用申請した。（抽選会は行われなかった）

#### 分析・課題

- 引き続き、ロッカー・メールボックス、倉庫2スペースともに、利用状況を継続的に確認し、未使用・無来館で長期間の保管スペースとなってしまう団体への確認を行い、有効に活用できるようにしていきたい。

## 2 ボランティア保険・行事保険の加入受付

#### 結果の概要

- ボランティア保険への加入促進の呼びかけと、加入手続きの事務を取り扱った。

#### 実績等

ボランティア保険加入者数（通年保険・受付随時）		3,615 人	
行事保険加入件数	日帰り行事	134 件	3,120 人
	宿泊行事	2 件	33 人

## 3 無線 LAN スポット運営

総合福祉センターの1階2階の全域で利用できるよう、無線LANスポットエリアを設置している。また、あくろす2階・3階共通のフリーWifi導入に伴い、SSID(Chofu-Free-WiFi-Plus01)に無線LANを利用している。

### 分析・課題

○総合福祉センターで実施されている手話講習会は、コロナ禍で、オンライン授業となる機会があり、多くの受講生がWi-Fiの利用登録をした。

ただ、セキュリティの観点から、利用希望者全員、登録制にしているが、かなり不特定多数が利用することになったため、年に1回のパスワードの変更等を検討している。

※無線LAN機器（株式会社バッファローAirStationPro）セキュリティ機能の範囲内で設定。

○はばたきにて、ペーパーレスでの会議やWeb上でのミーティング及び資料作成をする市民活動団体が増えているため、有効活用されている。しかし、利用者アンケート調査の結果において、1時間で接続が切れる設定が使いにくいという意見が多くあり、指定管理者に情報提供した。使いやすい環境に改善できるよう、引き続き働きかけを行っていく。

## 4 電話対応代行サービス（国領）

### 結果の概要

○市民活動団体が実施する活動やイベント・講座等に関する問い合わせ・受付の支援サービスとして、電話対応代行サービスを実施した。

### 実績等

利用料金	一件につき、月額 1,000 円（サポーター会員は 800 円）	
利用件数	令和3年度：延べ5件（3団体）	令和2年度：延べ9件（3団体）
サービス内容	・ 行事・講座・講演会等への内容照会および参加申込受付代行・団体の活動に関する問合せへの応答代行	

### 分析・課題

○令和2年度に引き続き、感染症拡大の影響により、多くのイベントが中止や延期となったため、利用件数が著しく減少した。また、申し込みを期限ギリギリまで待つ団体もあった。

## 5 印刷機の設置・運用

### 結果の概要

○市民活動団体のイベントチラシや会議資料等、大量の印刷物を安価に印刷できるよう、利用講習修了者であれば誰でも利用できるリソグラフ式印刷機を設置している。利用料は、マスター1枚につき50円、印刷枚数500枚につき100円の費用徴収を行っている。

○印刷機と紙折り機と一緒に倉庫2へ設置し、印刷後の移動の手間を省き、「はばたき」への印刷音に配慮している。

### 実績等

利用実績	令和3年度	令和2年度
印刷機利用者数	197	238
印刷講習受講人数（新規利用者）	10	13

分析・課題

○センターのほか、あくろす内の事業（若者サポートステーション、指定管理者他）は、無償で利用することができる。

## 6 市民活動支援に関する講座・相談会

結果の概要

○7つの講座を実施した。「えんがわカフェ」は、運営委員をはじめ市民の協力を得て実施した。

○地域人材養成講座は、調布市協働推進課との連携事業として、会議で検討しながら実施した。

実績等

日時	開催名	参加者数	講師	会費	場所
6月12日（土） 10時30分から 正午	えんがわカフェ#12 「一緒におにぎりを作っ て美味しく食べよう！」	10人	大西くみ氏 本間緑氏	無料	オンライン
11月29日（月） 12月6日（月） 18時30分から 20時30分	地域人材養成講座 「決められる会議とは!？」	14人 11人	長浜洋二氏	無料	市民活動支援 センター
12月11日（土） 13時30分から 15時	NPO入門講座 「はじめてのクラウドフ ァンディング」	6人	多田真一氏	500円	市民プラザ あくろす2階 会議室1
12月23日（木） 9時30分から 10時40分	えんがわカフェ#13 「おはなしほっとカフェ」	10人	横山真理氏 佐々木真紀氏	無料	市民プラザ あくろす2階 会議室1
2月24日（木） 13時30分から 14時40分	えんがわカフェ#14 「おはなしほっとカフェ」	6人	横山真理氏 佐々木真紀氏	無料	市民プラザ あくろす2階 会議室1
3月12日（土） 10時から正午	地域人材養成講座② 「地域デビューしてみな い？」	中止	森直樹氏	無料	市民活動支援 センター
3月17日（木） 9時30分から 10時40分	えんがわカフェ#15 「おはなしほっとカフェ」	5人	横山真理氏 佐々木真紀氏	無料	市民活動支援 センター
合計	7回	62人			

分析・課題

○えんがわカフェは、「市民活動支援センターが月1回、コミュニティカフェになる」をコンセプトに、毎回様々な角度からテーマを掲げ実施している。令和3年度は、これまで利用の少な

かった子育て世代の地域参画やセンターを知ってもらうことを目的に「おにぎりキャラバン」「おはなしほっとカフェ」を実施し、新しいつながりやパートナーシップを強化するきっかけづくりを行った。

○地域人材養成講座は、まん延防止重点措置の延長を受け、②の実施は中止したが、①の「決められる会議とは!？」でファシリテーションの心構えやコツを実践的に学ぶ機会を提供することができた。

○NPO入門講座では、令和2年度好評だったクラウドファンディングの初歩について、より多くの市民活動団体に知ってもらうため、再度実施した。参加者は6人と多くなかったが、実際の体験や気づきを元にした分かりやすい内容で好評を得ることができた。引き続き、活動資金獲得の選択肢として、周知を続けていきたい。

## 7 不要になった入れ歯、使用済み切手・カード類、書き損じはがき、外国コイン類の回収

### 結果の概要

○特定非営利活動法人日本入れ歯リサイクル協会が実施している「入れ歯リサイクル活動」に協力し、調布市総合福祉センター1階に回収ボックスを設置している。

この活動によって得られる益金の一部(40%)は当協議会に配分され、えんがわファンドの原資として活用している。令和3年度は、回収がなかったので収益金はなし。

○使用済み切手、カード類の回収のため、市役所、地域福祉センター、郵便局等に回収箱を設置。その他、企業、老人クラブ、幼稚園、小学校、市民からの寄付も募った。

○チラシを作成し、回収している物を示すことに加え、毎年の売上げ報告も掲載している。市民活動を応援する「えんがわファンド」の原資として、活用していることを周知した。

○ここ数年、カード類の整理をする方が不在だったために、未整理のカードを大量に抱えていた。令和3年度は整理してくださる人がいたので、そのことでカードの買取りもあり、その売上げが大きく、トータルして例年を少し上回る売上金額となった。

### 実績等

種 類	売 上 金 額	換 金 日
通常切手・記念切手類	¥83,805	令和3年9月16日
書き損じはがき	¥33,700	
使用済みカード	¥83,500	
外国コイン	¥30,700	
その他	なし	
<b>総合計 金額</b>	<b>¥231,705</b>	

## 8 市民活動助成事業「えんがわファンド」の実施

### 結果の概要

- 地域や社会の課題を解決し調布のまちが豊かになることを目指して、調布で活動するボランティアグループ・市民活動団体等を「資金」と「つながり」で助成する事業である。(平成18年度より実施)
- 幅広い分野のボランティア・市民活動や児童・生徒の体験活動・地域活動を支援すること、また本助成事業を通して、団体同士、あるいはセンターと団体が相互に交流し、協力しあう関係を構築することを目的に実施した。
- 市民ファンドとして、市民や企業からいただいた寄付やサポーター会費、ちょうふチャリティーウォーク参加費、使用済み切手・カードの販売、入れ歯のリサイクルによる益金等、様々な資金を活用して運用した。

### 実績等

#### (1) えんがわファンド選考委員会

##### ① 選考委員会の開催状況

開催日	5月21日(金) 19時~21時
会場	オンライン開催
内容	応募団体4団体を書類審査により3団体に助成決定 ※1団体は再選考

##### ② 再選考委員会の開催状況

開催日	7月7日(水) 19時~21時
会場	オンライン開催
内容	再選考となった1団体について審査を行い助成決定

##### ③ えんがわファンド選考委員 ◎…選考委員長

南條 勉	ちょうふチャリティーウォーク実行委員
旗野 貞夫	八王子市市民活動支援センターNPO さぽーと 802
◎壽賀 一仁	市民活動支援センター運営委員長
新國 政和	市民活動支援センター運営委員
高木 直	市民活動支援センター長

#### (2) 助成先団体 計4団体 助成総額 355,000円 ※ (申請順)

##### 【2021年度えんがわファンド助成先団体一覧】

No	団体名	助成額(円)	助成内容
1	あおい発達障害当事者会	100,000	当事者会活動で蓄積された茶話会の運営ノウハウを集めたマニュアル冊子「当事者茶

			話会スタッフの運営記録 当事者会立ち上げから茶話会現場の運営方法を教えます（運営マニュアル）～就労問題等の悩みを語る場としての茶話会運営～」の作成費
2	調布ひきこもり家族会「やまぼうし」	55,000	家族会に参加する当事者の家族がひきこもりについて理解を深めるための講師謝金。
3	セルフエスティーム	100,000	自分が望む医療ケアを受けられるようにあらかじめ家族や周囲の関係者とすり合わせをしておく人生会議（ACP）の周知・啓蒙活動のためのパンフレット作成とデザイン・名刺・私の大切なことノート作成費。また傾聴ボランティア活動周知のためのチラシ作成費用。
4	Withgrow	100,000	市民活動団体の魅力を発信し、市民活動参加を促進するためのPR動画を独自YouTubeチャンネルで配信するための撮影機器、モバイルバッテリー購入費用。
	合計	355,000	

(3) 2021年度えんがわファンド交流会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

(4) 財源（寄付金等）

実績等

令和3年度に「えんがわファンド」へいただいた寄付金等は以下のとおり。

提供者・概要 ※敬称略	R3年度	R2年度
サポーター会費	228,000円	270,000円
ちょうふチャリティーウォーク実行委員会	44,000円	160,000円
企業訪問（市民活動支援センター運営委員会）	0円	0円
指定寄附	0円	15,000円
リサイクル益金 （使用済み切手・カード・外国コイン・入れ歯）	231,705円	201,310円
えんがわカフェ	0円	0円
市民活動支援センター募金箱	0円	16,597円
講演等謝金（一部）		
合計	503,705円	662,907円

## 分析・課題

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、活動予定が立てられない団体が多く、申請をしても有効活用できないかもしれないという声が多かった。そのため、令和2年度に続き、実際に申請があったのは4団体と少なかった。(新規1団体)
- 本来であれば、資金面だけでなく、つながりづくりという点も積極的な支援を行い、団体同士の活発な交流を促したかったが、感染防止の観点から、令和2年度に続き、従来通りの取組ができなかった。
- コロナ禍における団体のつながりづくりをどのように行うかは大きな課題となっている。えんがわファンド交流会も実施できていないため、交流が図れる機会創出に務めたい。また、指定寄付についても同様に、改めて検討し、市民活動を応援してくれる企業や団体を増やしていきたい。

## 第4 ボランティア・NPO・市民活動コーディネート

### 1 相談対応、ボランティア・市民活動支援

#### 結果の概要

- 相談対応、活動支援、活動紹介等コーディネートを行い市民の主体的な活動を支援した。

#### 実績等

##### (1) ボランティア団体登録状況

- 情報登録団体 420 団体（市民活動団体リスト掲載数）
- 小島町コーナー登録団体 134 団体
- 令和3年度は、新規が2団体登録、3団体が解散となった。  
市内を活動拠点とするボランティア団体で、調布駅周辺で活動する団体が、小島町コーナーに登録をしている。情報登録団体と重複している団体は多い。  
登録団体は、年間通してボランティア活動室を定期利用でき、総合福祉センターの印刷機は無料で利用が可能。  
定期利用団体は、活動室内の棚やメールボックスの利用が可能で、定期利用を希望する団体は、現在20団体ほどである。

##### (2) ボランティア活動状況

保険加入者数 3,615人

#### 結果の概要

- 個人で活動するボランティアは、登録制度をとっていない。  
そのため、ボランティアの活動状況を把握するには、ボランティア保険の加入人数が実態に近いと考えられる。この中には、施設等でボランティアを長年継続して活動されている方等、コーディネート件数に含まれないボランティアも入る。
- 1回のみでの活動、あるいはサマーボランティア等短期且つ限定的な活動も保険へ加入するため、スポットで活動した方もカウントできる。ただし、必ずしも調布で加入した方が調布で活動す

るとは限らず、若干の相違が生じると思われるが、反対に調布以外で保険加入した方が調布で活動される場合もあり、またそのようなケースは少数であり、誤差の範囲内であると考え、最も実態に近い数字といえる。

○令和3年度は、令和2年度同様に、コロナ禍の影響を受け、ボランティアの受入れの制限をする施設が多くあり、例年通りの活動ができない人が多かった。活動者数も、例年に比べ25パーセント減となっている。

### (3) 相談業務及びコーディネート事業

#### 結果の概要

○新型コロナウイルス感染拡大防止のため、前年度に引き続き、全面的にボランティアの受入れを休止する施設が多く、特に高齢者施設では、デイサービスでの日々の活動のサポートや、誕生会等のイベントに関わる、演奏披露のような活動も令和2年度同様この一年も、ほとんどできない状況であった。

○社協事業に関わる活動についても、いきいき調理や高齢者会食等での食事づくりやひだまりサロン活動等、長い期間活動できないものがあり、活動先として紹介しながらも、活動が開始できずに、待たせてしまう事が多かった。

○自宅でもできる作業として、切手整理の活動（仕分けや束ね等）や、雑巾縫い等に、多くの方が取り組んだ。

○特別支援学校に通う子どもの送迎は、年間通して活動があった。

障がい児の放課後活動「放課後等デイサービス」で、送迎車両の運行を行っていない施設に通う子どもの送迎や、朝の登校時の付き添い等、場面は様々である。

また送迎では、児童生徒の送迎だけでなく、ショートを利用している成人からの送迎依頼も、新たに加わった。

#### 実績等

##### ① 相談件数

拠点	小島町 コーナー	菊野台 コーナー	富士見 コーナー	染地 コーナー	緑ヶ丘 コーナー	西部 コーナー	国領 センター	合計
相談 件数	2,397件	132件	408件	503件	623件	221件	(431)	4,284件 (4,715件)

※合計は市民活動支援センター窓口を除く

#### 分析・課題

○障がい児の送迎活動は、「放課後等デイサービス」利用時のほか、朝の登校時の見守り等の場面での依頼に対応した。

○特別支援学校の通学には、移動支援サービスは利用できない。調布市内にある特別支援学校は中学部までなので、高校生になると府中市にある学校までの通学が必要となる。通学が遠くなり、移動距離も長くなるため、ボランティアの支援に頼らざるを得ない状況が続いている。

○活動団体の代表者から活動再開に向けた相談が増え、徐々にではあるが賑わいが戻っている。また、地域包括支援センター、学校協働本部地域コーディネーター等、他機関から相談を受け

ることも増えてきている。

○各地域で様々な取組が動き出しているが、高齢者のスマホ操作に関しての相談が増えてきている。必要最低限の情報の収集や人とのつながり維持ができるよう、各地域で工夫しながら継続的に取り組んでいる。

○長く活動を続けている団体のメンバーの高齢化、また、メンバー数の減少がある中、コロナの収束が期待できない状況で、解散を決めた団体が2団体あった。

## 2 ボランティアガイダンス（ボランティア入門講座）

### （1）ボランティアガイダンス

#### 結果の概要

○市民の社会参加を促しこれからの市民活動を担う人材を発掘することを目的に、ボランティア・市民活動に参加したい方や知りたいという方を対象に、ボランティアガイダンスをセンター及び各ランチで開催した。

#### 実績等

拠 点	開催日	参加者数	スタッフ	事業協力者
小島町コーナー	7月28日（水）	4人	2人	0人
	2月17日（水）	1人	2人	0人
富士見コーナー	5月29日（土）	2人	2人	0人
	12月9日（木）	0人	0人	0人
菊野台コーナー	10月12日（火）	1人	1人	0人
染地コーナー	4月17日（土）	2人	1人	0人
	11月11日（土）	1人	1人	0人
緑ヶ丘コーナー	1月29日（土）	1人	0人	0人
西部コーナー	8月20日（金）	0人	0人	0人
	3月19日（土）	5人	1人	0人
市民活動支援センター（国領）	9月24日（金）	3人	3人	0人

#### （小島町コーナー）

○コロナ禍による参加者の減少傾向は続いている。駅前立地を活かし、総合福祉センター1階の窓に、ポスターを掲示し広報に努めた。当日、それを見て参加された方もあった。

○令和3年度のガイダンス参加者も、8割ほどが「市報（ふくしの窓）を見て参加した」と回答。ふくしの窓や市報等、全戸配布による広報が有効ではあるが、毎月発行の「えんがわだより」

も日々の窓口対応で声掛けを行い、また、ふくしの窓に挟み込む等、周知を図った。開催している「ガイダンス」は、市報にはなかなか掲載してもらえない状況にあるのが残念である。

○ボランティア募集状況については令和3年度も変化が大きく、日々の状況確認を丁寧に行った。

○ガイダンスでミニ体験コーナー（切手整理・手作りマスク）を取り入れ、ボランティア活動により関心を持っていただける内容を心掛けた。

（菊野台コーナー）

○退職を機に、話を聞いてみたいと参加。すぐに活動を希望しているわけではなかったため、基本的な心構えや、活動の種類を説明する。

（富士見コーナー）

○定年退職後の新たな活動を求めて参加された方、調布市に転入した方からの相談を受けた。

（緑ヶ丘コーナー）

○一度他のコーナーのガイダンスに参加されたが、地域が近いので再度参加された。男性が退職後、社会参加へと促す活動をすでに始められている方だった。

（西部コーナー）

○3月は、申し込みが定員を超過したため、午前・午後に分けて対応した。参加者も20代から60代まで幅広く、参加の動機や興味も子どもに関わる活動、高齢者に関わる活動、障がい者に関わる活動、減災に関わる活動等、多様だった。

○参加者の動機は、学校の授業、就職に活かしたい、介護の対応を学びたい等様々だった。現在、活動先が有償である場合もあり、ボランティアの4原則の枠に収まらないこともあるため、それらを踏まえたガイダンスが行えるよう、改善する必要性を感じている。

（染地コーナー）

○福祉施設でのボランティアをしたいという目的で参加した方がおり、実際に紹介まで行ったが、感染者数が増加したことにより、活動が行えなかった。コロナ禍における活動先の紹介の難しさを引き続き実感した。

（市民活動支援センター）

○令和2年度と比較して参加者が増加した。新型コロナウイルスで変化した社会ニーズやボランティア活動の変化について説明を行った。

## 第5 ボランティア・NPO・市民活動団体、企業や行政との協働

### 1 やあやあドリームオールスターズ（YDAS）

「第18回こどもあそび博覧会」

#### 結果の概要

○令和2年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、会場予定校である国領小学校との協議、実行委員主要メンバーによる協議のうえ、開催を見送ることを決めた。

#### 分析・課題

○新型コロナウイルスの感染拡大状況に注視し、実施の可否の判断を早めに行っていきたい。

## 2 ちょうふチャリティーウォーク

### 結果の概要

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響は大きいですが、こうした社会情勢下だからこそ、寄付文化の醸成を目的に、方法の工夫や感染防止対策を徹底し、実施することにした。平成20年の初回から数えて第13回目の実施。企画、運営は、引き続き実行委員会で行い実施した。
- 実行委員会で、実施方法を検討した結果、感染リスクを下げるために、従来のような特定のウォーキングコースやイベント会場は設けず、市民活動支援センター及び各コーナーをチェックポイントにしたスタンプラリーを実施。また、開催日も1日ではなく、約3週間に渡る期間にすることで、密を避けて楽しめるイベントとして企画した。

### 実績等

#### (1) ちょうふチャリティーウォーク 2022 春

実施期間	2月22日（火）～3月13日（日）		
コース・会場	・感染防止対策のため、特定のコースは設けず、市民活動支援センター及び各コーナーの8カ所をチェックポイントに指定し、期間内に全てのチェックポイントを巡るという内容で実施した。		
参加者	46人	参加費	500円
スタッフ	5人		
主催	ちょうふチャリティーウォーク実行委員会		
共催	社会福祉法人調布市社会福祉協議会		
後援	調布市		
チャリティー金額	25,817円（えんがわファンドへ）		

#### (2) プレイメント

- 10月30日（土）10時から、「寄付がまちにもたらす効果」をテーマに、ちょうふチャリティーウォーク初代実行委員長、現実行委員長、第1回ちょうふチャリティーウォーク開催当時の社協職員の3人でオンライントークライブを実施した。当日は市民活動支援センター受付に募金箱も設置し、18,305円の寄付も得ることができた。

### 分析・課題

- 参加者は46人と振るわなかったが、参加された方の評価・満足度は非常に高かった。コロナ禍で外出機会や地域を歩く機会が減少する中、SNSや市報での発信、チラシの配架を行ったことで、参加に至らずともまちに目を向けるイベントとして一定の効果があった。
- 令和4年度以降も感染防止対策を講じながらのイベント開催が想定されるが、これまでの対策を活かし、参加者の拡大を狙いたい。
- コロナ禍の2年間で、新たな人材の発掘や、新しい団体との関わりが難しく、実行委員会が小規模化している。令和4年度は、イベント企画や運営に関わる新しい人材発掘にも力を入れる

必要がある。

### 3 調布市市民プラザあくろすでの連携

#### 結果の概要

○調布市市民プラザあくろすにある、男女共同参画推進センター、産業労働支援センター、指定管理者(株)セイウンと連携し、あくろす全体での取組の調整や情報共有を行った。

#### 実績等

- あくろすの3センターと指定管理者で構成される「あくろす連絡会議」(毎月1回)に出席し、情報交換を行った。会議とは別に必要に応じて、情報交換を行った。
- あくろす並びに商業施設「コクティール」と合同で、2か月に1回、清掃活動に参加した。
- 6月末から7月の都議会議員選挙及び10月の衆議院議員選挙における期日前投票所の設置について、指定管理者および選挙管理委員会と調整を行い、協力した。
- 感染対策についての情報共有を行った。

#### 分析・課題

○施設の老朽化も目立ち、修繕について陳情や協議は行っているが、調整に時間を要している。引き続き利用しやすい環境保持のため、調整を進めたい。

### 4 北多摩南部ブロックボランティア・市民活動センターとの連携

#### 結果の概要

- ブロック内の他地区センターと事業共催することにより、連携強化を図ると同時に、業務や経費を分担することで効率的で多彩な事業を展開することを目的として平成12年度から実施。
- 共催企画として、東日本大震災から10年が経過し、当時幼かった被災者から震災を学ぶ「ユースダイアログ」をオンラインと会場のハイブリッドで実施した。

#### 実績等

第2部のP57参照

### 5 その他

#### 結果の概要

○様々な団体の活動に参加・協力をし、連携を深めた。

#### 実績等

日時	団体名	内容
9月12日(日)	国領地区協 国領みんなの広場	第六中避難所開設訓練
10月6日(水)	調布市自治会連合会	自治連 防災イベント

10月18日(月)	地域包括支援センター 調布花園	地域ケア会議 防災講座
11月17日(水)	西部公民館	西部公民館 ボッチャ講座
5月13日(木) 6月20日(日) 6月26日(土) 6月27日(日) 7月3日(土) 7月6日(火) 7月8日(木)	東京慈恵会医科大学医学部看護学科	1・2年生授業「ボランティア論」の 講義及び市民活動体験先コーディネート
12月18日(土)	東京慈恵会医科大学医学部看護学科	看護対象論 授業協力
12月20日(月)	東京慈恵会医科大学医学部看護学科	看護対象論 授業協力

## 第6 人材育成、学習支援

### 1 出前ボランティア講座の実施

#### 結果の概要

○小・中学校で進められている「総合的な学習の時間」、高等学校での「人間と社会」の研修等に対応した。

#### 実績等

出前回数	15回	出前先	小学校	9回
受講生	延べ1,036人		中学校	1回
派遣スタッフ	延べ22人		高等学校	1回
			関係機関	4回
開催講座数	46講座 (内訳：手話5、視覚障がい者ガイド15、点字5、車いす20、その他1)			

#### 分析・課題

○まだコロナ禍にあった令和3年度は、出前講座で体験を希望する学校に向けては、事前に教員に対するレクチャーを実施するようにし、そのための教材作りを行った。

レクチャーを受けた教員の学校には、機材を貸し出し、教員が指導する下で講座を実施してもらうようにした。

改めて教員に向け、丁寧な指導ができたことにより、教員の気づきが大きく、今回の試みの一番の成果だと感じる。

当事者発信のメッセージが伝えられない面もあるが、なるべく今までの講座の中で発信されてきたメッセージを伝えるようにした。

○スタッフを派遣しての体験を希望する学校もあり、状況を見つつ実施するよう計画した。しかし、実施日が近づく頃、また感染拡大が始まり、やむなく中止、といケースが4件あった。

○手話講座は、教員による講座実施が難しく、DVD教材を貸し出したり、動画配信の案内等をした

りした。

また、その他の試みとして、事前に調べ学習をした児童が、その中で調べられなかったこと、聞こえない人に聞いてみたいこと等の質問を提出してきたので、それに対し「ビデオメッセージ」を作成した。その質問に聴覚障がいスタッフが回答するケースもあった。

ただこの場合、編集から、手話の音声通訳を入れたりする作業を、当事者に任せるしかなく、スタッフに大きな負担をかけてしまう、ということになった。

○学校では、タブレットが、児童、生徒に普及しているが、リモートによる授業は、どこの学校でも実施することができなかった。

学校側で受信できる教室が限定されていることが、その原因になっている。

## 2 都立高等学校における教育活動支援業務の実施

### 結果の概要

○平成19年度からは、教科「奉仕」の授業の一環として、また平成28年度からは、それを発展的に統合した新教科「人間と社会」という必修教科の授業として、令和3年度からは、「総合的な探求の時間」の取組として、出前講座を実施している。

### 実績等

#### (1) 実施内容

講演会：テーマ「障がい理解について ～視覚障がい当事者からのメッセージ～」

#### (2) 会場校・対象者

・都立調布北高等学校 第1学年 全6クラス 240人

#### (3) 実施状況

従来、1学年6クラスを対象に手話、車いすの講座を実施し、点字、ガイドヘルプ講座については、どちらか1講座を選択する方法で実施していたが、令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年度同様、講演会の形式にし、1年生全員を対象に、講演会形式で実施した。

### 分析・課題

○全体講演会でも、話を聞くだけでなく、生徒何人かに、舞台上でガイド体験を実演してもらったり、書画カメラを使い、普段の生活を紹介する写真等を紹介したりした。

また、視覚障がいでもスマホの利用ができること、そのためのアプリがいろいろとあることを紹介等もした。

話を聞くだけでなく、視覚的な情報、一部疑似体験を取り入れたことにより、より生徒にはこちらから発信したメッセージが届いたように感じた。

令和4年度も全体会形式にすることは決まっているので、より伝えるための工夫を考えていきたい。

### 3 ボランティアキャンペーンの実施

#### (1) 調布サマーボランティア 2021

##### 結果の概要

- 東京ボランティア・市民活動センターが実施する「夏の体験ボランティア」キャンペーンは中止となった。
- 調布市独自のボランティア体験プログラムとして『調布サマーボランティア 2021』を実施。
- ボランティア体験プログラム、寄付体験プログラムの2本のプログラムを実施した。
- ガイダンス用動画を作成。人を集めてのガイダンス集会を取りやめ、動画視聴によるガイダンスを実施した。
- ボランティア活動当日には職員が活動先を訪問し、振り返りに同席しフォローアップを行った。
- 調布サマーボランティア活動報告 B00k を作成し、体験者、団体・施設両者のメッセージを掲載。団体・施設は体験者からのメッセージを通じて体験者の想いを知ることができ、体験者は自身の活動を振り返る機会となった。

##### ボランティア体験プログラム実績等

申込み	期 間	令和3年7月10日(土) ~7月24日(土) 9時~17時	
	内 容	・ボランティア体験プログラム	
活動別内訳 参加者人数及び	参加者総数	69人(男性 8人 女性 61人)	
	年齢層内訳	中学生	28人
		高校生	29人
		大学生(短大含む)	6人
社会人		6人	
協力団体・施設	14団体	内 訳	
		高齢者関係	3団体 3プログラム
		障がい者(児)関係	2団体 2プログラム
		子ども関係	1団体 1プログラム
		その他	8団体 8プログラム
期 間	体験期間	令和3年8月1日(日) ~8月31日(火) 9時~17時	

##### 寄付体験プログラム実績等

申込み	期 間	令和3年7月10日(土) ~9月30日(木) 9時~17時	
	内 容	・寄付体験プログラム	

活動別内訳 参加者人数及び	参加者総数	48人（男性 1人 女性 47人）	
	年齢層内訳	小学生	2人
		中学生	20人
		高校生	3人
		大学生(短大含む)	0人
		社会人	23人
協力団体・施設	21団体	内 訳	
		高齢者関係	1団体 1プログラム
		障がい者（児）関係	2団体 2プログラム
		子ども関係	4団体 4プログラム
		その他	14団体 14プログラム
体験期間	寄付 受付期間	令和3年8月1日（日）～9月30日（木）9時～17時	

### 分析・課題

- 参加者の任意アンケート回収率が低かった。
- 感染症対策を行いながら実施した。活動を行う上で注意が必要であった。
- これまで参加のなかった学校からの参加申し込みがあった。
- 令和2年度に続くリピーター参加があった。
- サマーボランティアプログラム参加後に、活動を継続したケースが3件あった。
- ガイダンス動画、職員のサポートについて『安心して参加することができた』と好評をいただいた。
- 活動報告BOOKを、すべての参加者および活動先に送付。次の活動につながるよう動機づけを行った。また、市内中学、高等学校の学校長宛に活動報告BOOKを送付し、センターの取組について周知する働きかけを行った。

### (2) ふゆやすみボランティア

#### 結果の概要

- サマーボランティアに参加経験がある方を主対象とした冬季休業期間のボランティアプログラムとして実施した。
- サマーボランティア参加者のメーリングリスト、LINE、Twitter等で広報を行った。（チラシ配布はなし）
- 申し込みはGoogleフォームを活用し、活動前の注意事項、質問等はメールで対応を行った。
- ボランティア活動当日は、職員が活動開始時と振り返り時に同席し、体験プログラムとして手厚くフォローアップ体制をとれるようにした。

ふゆやすみボランティア実績等

申込み	申込期間	令和3年12月17日(金)～12月24日(金)9時～17時	
	内容	・ボランティア体験プログラム	
内訳 参加者人数及び	参加者総数	4人(男性0人 女性4人)	
	年齢層内訳	高校生	2人
		大学生(短大含む)	2人
活動団体	21団体	内 訳	
		子ども関係	1団体 1プログラム
		その他	4団体 4プログラム
体験期間	ボランティア体験	令和3年12月25日(土)～1月6日(木)9時～17時	

分析・課題

- 参加人数は少数でありながら、活動に対して意欲的、主体的な人材が参加する傾向であった。  
また、参加者は全員が団体担当者と連絡先の交換を行い、今後も活動の継続を希望した。
- 自宅で活動が可能な製作ボランティア(イラスト)では、事前打ち合わせで目的をしっかりと伝えることで、連携を取ることができた。そして、コロナ禍でも感染症流行の影響を受けない活動を作ることができた。
- 参加申し込みのなかった団体があり、アンケート等で調査をする必要性を感じた。

## (3) はるやすみボランティア

結果の概要

- サマーボランティアに参加経験がある方を主対象とした春季休業期間のボランティアプログラムとして実施した。
- サマーボランティア参加者のメーリングリスト、LINE、Twitter等で広報を行った。(チラシ配布はなし)
- 申し込みはGoogleフォームを活用し、活動前の注意事項、質問等はメールで対応を行った。
- ボランティア活動当日は、職員が活動開始時と振り返り時に同席し、体験プログラムとして手厚くフォローアップ体制をとれるようにした。
- 活動後には、ボランティア活動報告フォームに、活動を通して感じたことを記入してもらった。

はるやすみボランティア実績等

申込み	申込期間	令和4年3月16日(水)～3月24日(木)9時～17時	
	内容	・ボランティア体験プログラム	
活動別内訳 参加者人数及び	参加者総数	10人(男性0人 女性10人)	
	年齢層内訳	高校生	2人
		高校生	8人
活動団体	21団体	内 訳	
		子ども関係	1団体 1プログラム
		その他	4団体 4プログラム
体験期間	ボランティア体験	令和4年3月26日(土)～4月6日(水)9時～17時	

分析・課題

- 参加人数は少数でありながら、活動に対して意欲的、主体的な人材が参加する傾向であった。  
サマーボランティアからのリピーター参加者が6人いた。
- 参加希望が集中する団体には、追加で活動日程を調整した。
- 活動報告フォーム内アンケート『今後もボランティアを続けたいか?』の項目では、全員が『続けたい』と回答した。また、『今後、センターからのボランティア情報を希望するか?』の質問においても、全員がボランティア情報を希望した。
- 『活動に対する不安があったが、職員のフォローがあったおかげで安心して活動ができた』とご意見をいただいた。
- 活動報告フォームにいただいたコメントをまとめ、【はるやすみボランティア活動報告レポート】を全活動者と、活動先団体にデータで送付。活動の振り返りとした。

## 第7 職員の派遣・研修 他

## 1 他団体等への職員派遣

- 関係機関の各種会議及び講座、研修等に職員の派遣を行った。

実績等

日程・期間	会議・講座名称	主催団体
4月9日(金)	旭出調布福作 第三者委員	旭出調布福作
4月21日(木)	事務局連絡会議・夏ボラ担当者会議・	東京ボランティア・市民活動

第2部 ボランティア・市民活動の推進

	災害V○担当者会議 (Zoom 会議)	センター
4月23日 (金)	東ボラ新任研修講師	東京ボランティア・市民活動センター
5月13日 (木)	東京慈恵会医科大学看護学科 ボランティア論講師	東京慈恵会医科大学看護学科
6月9日 (水)	7市市民活動連絡会 (Zoom 会議)	7市市民活動連絡会
6月17日 (木)	センター長会議 (Zoom 会議)	東京ボランティア・市民活動センター
7月8日 (木)	東ボラ新任研修講師	東京ボランティア・市民活動センター
7月9日 (金)	旭出調布福作 第三者委員	旭出調布福作
7月28日 (水)	事務局連絡会議 (Zoom 会議)	東京ボランティア・市民活動センター
8月6日 (金)	調布ケアマネ協会災害講座 講師	調布ケアマネ協会
8月23日 (月)	男女共同参画推進センター運営委員会	男女共同参画推進センター
9月24日 (金)	調布市総合防災訓練 担当者会議 (書面開催)	調布市総合防災安全課
9月30日 (木)	北多摩南部ブロック VC担当者会議	北多摩南部ブロック
9月30日 (木)	男女共同参画推進センター運営委員会	男女共同参画推進センター
10月15日 (金)	事務局連絡会議・夏ボラ情報交換会 (Zoom 会議)	東京ボランティア・市民活動センター
10月19日 (火)	男女共同参画推進センター運営委員会	男女共同参画推進センター
11月2日 (火)	地域ケア会議研修 防災講座 講師	地域包括支援センター 至誠しばさき
11月17日 (水)	防災関係機関会議	調布市総合防災安全課
12月3日 (金)	災害V○担当者会議 (Zoom 会議)	東京ボランティア・市民活動センター
12月9日 (木)	センター長会議	東京ボランティア・市民活動センター
12月23日 (木)	おもてなしボランティア向け ボランティア説明会	調布市オリンピック・パラリンピック担当
1月13日 (木)	7市市民活動連絡会 (Zoom 会議)	7市市民活動連絡会
1月15日 (土)	おもてなしボランティア向け ボランティア説明会	調布市オリンピック・パラリンピック担当
1月20日 (木)	事務局連絡会議 (Zoom 会議)	東京ボランティア・市民活動センター
1月27日 (木)	社協 西多摩ブロック	社協 西多摩ブロック

	災害研修会講師	
2月15日(火)	センター長会議(Zoom会議)	東京ボランティア・市民活動センター
3月9日(水)	調布FM 震災特別放送 ゲスト	調布エフエム放送局
3月16日(水)	「始めてみようボランティア」講師	地域デビュー実行委員会 生涯学習情報コーナー

## 2 職員研修

○相談支援等のレベルアップを図るため、それぞれの経験年数、職務に応じた研修に参加した。

○在宅勤務の機会を生かし、関係書籍やオンライン配信の視聴による個別学習を行った。(記載外)

### 実績等

会議・講座名称	参加人数	主催団体
東ボラ新任研修-1	1	東京ボランティア・市民活動センター
支援力アップ塾-1	5	東京ボランティア・市民活動センター
東ボラセンター長研修	1	東京ボランティア・市民活動センター
支援力アップ塾-2	2	東京ボランティア・市民活動センター
東ボラ新任研修-2	1	東京ボランティア・市民活動センター
支援力アップ塾-3	3	東京ボランティア・市民活動センター
熱海市災害V Cセミナー	1	サイボウズ
東ボラ新任研修-3	1	東京ボランティア・市民活動センター
100万人のクラシックライブ活動報告会	1	100万人のクラシックライブ
東ボラ新任研修-4	1	東京ボランティア・市民活動センター
東ボラ新任研修-5	1	東京ボランティア・市民活動センター
東ボラ新任研修-6	1	東京ボランティア・市民活動センター
東ボラボランタリーフォーラム	6	東京ボランティア・市民活動センター
初めてのクラウドファンディング	2	子どもの未来をつむぐ会
職員のためのメンタルヘルス講習会	5	東社協
決められる会議とは	4	市民活動支援センター
調布福祉実践フォーラム	2	調布福祉人材センター
参加人数合計	38	

## 3 視察対応

○他地域及び各種団体の見学依頼に随時対応した。

### 実績等

日程	団体名等
4月5日(月)	調布社協 4月採用新任職員見学研修受け入れ

7月 5日（月）	東京都生活文化局・東京都つながり創生財団 職員見学
10月 5日（火）	調布社協 10月採用新任職員見学研修受け入れ

## 第8 調査・研究

### 結果の概要

○令和2年度実施した市民活動に関する調査【団体編】【個人編】の集計作業に時間を要し、分析結果の公開には至れなかった。

### 分析・課題

○令和4年度速やかにアンケート結果の分析を行い、次期中長期運営方針の策定のヒントにできるよう、調査結果を有効活用できるようにしたい。

## 第9 災害対策・支援（重点項目）

### 1 調布市における災害ボランティアセンターの設置・運営

#### 結果の概要

- 調布市と調布社協との「災害時におけるボランティア活動に関する協定」に基づき、検討を進めた。
- 協定締結から15年の年数がたった調布市と調布社協との「災害時におけるボランティア活動に関する協定」についての見直し作業を進めたが、社協全体にかかわる基本協定に変更するとともに、細かい部分は案件別の「覚書」とする変更提案を受けたことで、再締結まで進めることができなかった。
- 国領地区協議会が開催した、調布市立第六中学校での避難所開設訓練に見学参加を行った。

#### 分析・課題

- 災害ボランティアセンターの設置・運営については、過去の経験を活かし、水害、地震等の自然災害発生を想定の上、より具体的な内容になるよう、さらに調布市関係部署と協議を進め、協定書の修正を行い、再締結が必要になるとともに、「設置・運営マニュアル」の作成が急がれる。
- 災害時に災害ボランティアセンター運営に協力していただける市民、企業に向け、災害時ボランティア講座等の実施を継続的に行っていききたい。

### 2 調布市災害ボランティアセンター

#### （旧調布市被災者支援ボランティアセンター）のサイト運営

#### 結果の概要

- 調布市被災者支援ボランティアセンターは、東日本大震災後設置された味の素スタジアムの避難所で、ボランティアと共に避難生活をサポートすることを目的に設置され、現在もサイト上

やフェイスブックで情報を交換している。

- 災害ボランティア講座等、災害にかかわるイベント情報等も情報提供を行った。
- Twitter、Facebook ページにて復興支援情報の拡散を行い、市民同士の交流となった。
- 当サイトの脆弱性への対応として、サイト運営者と協議の上、年間1回のセキュリティーチェックを実施するとともに、外部機関によるサイトの脆弱性のチェックを行った。

### 実績等

- セキュリティーチェックを年間1回実施した。
- 外部機関によるサイトの脆弱性のチェックを行った。

### 分析・課題

- 災害時にすぐに運用が開始できるように、最低限のサイトの維持管理は行っている。必要な問い合わせ対応等は市民活動支援センターホームページで対応する。
- サイトの脆弱性については、サイトの安全性を担保する必要性から、常に変化する課題へ対応するため、年間で複数回のチェック及び更新作業を継続的に行っていく必要があるが、予算の都合上1回の実施となっている。
- 当該サイトを活用し、災害に関する情報提供の発信を進めていく。

## 3 災害ボランティア養成講座の開催

### 結果の概要

- 今回は、令和元年10月の台風19号の浸水被害を受けて、水害を想定した4回の連続講座の開催とした。延べで、14人の参加があった。
- 第3回は、感染拡大を受け、10月開催に延期とした。

### 実績等

災害ボランティア養成連続講座 2021					
回数	日時	会場	内容	講師	参加人数
1	7月1日(木) 19:00~20:30	市民プラザ あくろす2階 会議室1	調布市のハザードマップと 令和元年台風19号の被害について	調布市 総合防災安全課 職員	9人
2	7月9日(金) 19:00~21:00	市民プラザ あくろす2階 会議室1	令和元年台風19号 その 時、災害ボランティアセン ターは？	市民活動支援セ ンター 高木 直	12人
3	7月15日(木) 19:00~21:00	市民プラザ あくろす2階 会議室1	感染拡大を受けて、延期		
3	10月14日(木) 19:00~21:00	市民プラザ あくろす2階	水害の時、市民ボランティ アにできること	AAR Japan 野際紗綾子氏	8人 会場4人

		会議室 1	(オンラインとのハイブリッド開催)		ZOOM4 人
4	10月31日(日) 9:00~12:00	多摩川河川敷 総合防災訓練会場	調布市総合防災訓練 ボランティア参加	市民活動支援センター職員	7人

### 分析・課題

- 調布における災害発生時に活動できる人材の発掘・育成につなげていくためにも、新型コロナウイルス感染拡大状況を考慮しつつ、毎年開催していきたい。
- 地域ニーズも考慮した、様々な場面を想定した講座の開催について検討が必要である。

## 4 調布市総合防災訓練への参加

### 結果の概要

- 調布市総合防災安全課と連携し、調布市総合防災訓練の会場に「災害ボランティアセンター」の設置を行い、災害ボランティア養成連続講座の受講者が、ボランティアとして参加した。
- 災害時要支援者訓練として、河川敷の不整地を使った、車いす体験の訓練も実施した。

### 分析・課題

- 職員として、災害ボランティアセンターでの、受入から、活動、報告までの流れを大まかに確認することができた。
- 各地域で行われる「防災訓練」とも連動し、より多くの市民に参加いただける工夫が必要。
- 頻発する自然災害に備え総合防災訓練をより実践的な動きとつなげていくためにも、災害ボランティアセンター立ち上げ・運営マニュアルの準備を急ぐ必要がある。

## 5 北多摩南部ブロックボランティアセンター連絡会の取組

### (1) 共催事業実施内容

名 称	3.11 ユースダイアログ
日 時	令和3年12月12日(日) 13時~15時30分
会 場	オンライン及び調布市市民プラザあくるす会議室1
内 容	震災当時、小学生だった2人のゲストスピーカーを迎え、当時の体験やその後の生活の中で感じた想いに耳を傾け、今自分たちに何ができるのか、これからの自分たちが何を考え、行動しなければならないのかについて検討した。

### (2) 北多摩南部ブロックボランティア・市民活動センター担当者連絡会

実施回数	7回
参 加 者	小金井ボランティア・市民活動センター、府中ボランティアセンター、みたかボランティアセンター、調布市市民活動支援センター、東京ボランティア・市民活動センター、認定NPO法人難民を助ける会 [AAR JAPAN]、東日本大震災支援全国ネットワーク [JCN]
内 容	共催事業内容の検討や各センターの情報交換等

### 分析・課題

- 感染症拡大の影響を受け、対面開催は叶わなかったが、オンラインで7回の連絡会を実施し、共催企画の打合せや、ブロック社協での災害時協定の締結に向けた検討、情報共有等を行い、連携を深めることができた。
- 令和4年度は、災害時協定の締結に向けた具体的な勉強会や検討会に入るため、より効果的な連携協定が締結できるよう、議論を深めたい。